科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17111	英語Ⅰ Aクラス(火曜、金曜・１限) American Headway1コース	２単位 前期	1～4	演習	フレデリック・ロバト（非）

■テーマ　　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業の概要

国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能の基礎力の定着を図り、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し基礎的な文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活に必要な基礎的なコミュニケーションができる。
・基礎的な英文法を理解し、簡単な文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法

1	Orientation	2	unit1 会話　Introducing yourself
3	unit 1 文法　Verb to be, Possessive	4	unit1 リスニング　Personal information
5	unit 1 読解　A student’s blog	6	unit2 会話　What time is it?　Role play
7	unit 2 文法 Simple Present, Questions and Negatives	8	unit2 リスニング　People and their jobs
9	Unit2 読解　A really good job	10	unit3 会話　Social expressions
11	Unit3 文法 Simple present, Adverbs of frequency	12	unit3 リスニング　In my free time…
13	unit3 読解　Perfect weekend	14	unit3 英作文　Filling out forms
15	unit1 から unit3 までの振り返り Mid-term examination	16	unit4 会話　Numbers and Prices
17	unit4 文法　There is/are, some/any/a lot of	18	unit4 リスニング　What’s in your bag?
19	unit4 英作文　Describing your home	20	unit4 読解　America’s most famous address
21	unit5 会話 What can you do? Talking about you	22	unit5 文法 can/can’t, Adverbs, was/were/could
23	unit5 リスニング　Child prodigies	24	unit5 英作文　Writing an email
25	unit5 読解　A talented family	26	unit6 会話　What’s the date?
27	unit6 文法　Simple past, Time expressions	28	unit6 リスニング　Interview
29	unit6 読解　The meaning of life	30	unit4 から unit6 までの振り返り Final Examination

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・プレイスメントテストでAクラスの指定を受けた学生対象のクラスです。
教科書は *American Headway: Student book 1*, (Third edition)を使います。
C,Dクラスとは教科書が異なります。
・授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
・授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
・オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師（髙良）と学習相談をすることを勧めます。
・遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点および課題提出（50%）、中間・期末試験（50%）。
□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：Liz and John Soars, *American Headway: Student book 1*, third edition (Oxford University Press, 2009) 4月に学内で教科書販売があるので、その際に必ず購入すること。
□辞　書：Oxford Learner’s Pocket Dictionary or Oxford Wordpower Dictionary for the enthusiastic student　あるいは、英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17111	英語Ⅰ Bクラス(月曜、木曜・1限) *American Headway 1* コース	2単位 前期	1~4	演習	渡久山　幸功（非） ジョージ・マクレイン（非）

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能の基礎力の定着を図り、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し基礎的な文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。ネイティブスピーカーの教員が主にコミュニケーションアクティビティを行い、日本人教員がテキストを中心に英文法の説明を行います。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活に必要な基礎的なコミュニケーションができる。
・基礎的な英文法を理解し、簡単な文章を読んだり、書いたり、聞いたり、話したりすることができる。

■授業計画・方法（授業回数の後のアルファベットが担当予定者：T＝渡久山、M＝マクレイン）

1T	*Orientation*	2M	unit 1 会話　Introducing yourself
3T	unit 1 文法　Verb to be, Possessive	4M	unit 1 リスニング Perfonal information
5T	unit 1 読解　A student's blog	6M	unit 2 会話　What time is it?　Role play
7T	unit 2 文法　Simple Present, Questions and negatives	8M	unit 2 リスニング People and their jobs
9T	unit 2 読解　A really good job	10M	unit 3 会話　Social expressions
11T	unit 3 文法　Simple present, Adverbs of frequesncy	12M	unit 3 リスニング　In my free time…
13T	unit 3 読解　Perfect weekend	14M	unit 3 英作文　Filling out forms
15T	unit 1 から unit 3 までの振り返り、Mid-term examination	16M	unit 4 会話　Numbers and Prices
17T	unit 4 文法　There is/are, some/any/a lot of	18M	unit 4 リスニング　What's in your bag?
19T	unit 4 英作文 Describing your home	20M	unit 4 読解　America's most famous address
21T	unit 5 会話　What can you do? Talking about you	22M	unit 5 文法　can/can't, Advers, was/were/could
23T	unit 5 リスニング　Child prodigies	24M	unit 5 英作文　Writing an email
25T	unit 5 読解　A talented family	26M	unit 6 会話　What's the date?
27T	unit 6 文法　Simple past, Time expressions	28M	unit 6 リスニング　Interview
29T	unit 6 読解　The meaning of life、期末試験	30M	unit 4 から unit 6 までの振り返り、Review、期末テスト

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- プレイスメントテストで B クラスの指定を受けた学生対象のクラスです。教科書は *American Headway: Student book 1* (Third edition)を使います。C,D クラスとは教科書が異なります。
- 授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉(20%)、課題提出・小テスト（35%)、中間・期末試験（30%)
プレゼンテーション（15%）2 名の担当教員の評価を合算して、合議の上評価を決定する。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　・ Liz and John Soars, *American Headway: Student book 1,* third edition
(Oxford University Press, 2009) 4 月に学内で教科書販売があるので、その際に必ず購入すること。

□辞　書　*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student
あるいは、英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17111	英語Ⅰ Cクラス(火曜、金曜・1限) *American Headway 2*コース	2単位 前期	1～4	演習	高良　則子 クリストファー・メリー（非） 〈Cクラス〉

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能を総合的に向上させ、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。

日本人講師とネイティブ講師とのペア・ティーチング・クラスです。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活の出来事について円滑なコミュニケーションができる。
・英文法を理解し、日常生活での説明的・実用的な文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法（授業回数の後のアルファベットが担当予定者：T＝高良、M＝メリー）

1T	*Orientation*	2M	unit 1 会話 Getting to know you 英語で自己紹介
3T	unit 1 文法 時制について、Wh 疑問文	4M	unit 1 リスニング My oldest friend 私の友人
5T	unit 1 読解 A blind date ブラインドデートとは	6M	unit 2 会話 Things I like doing 趣味について
7T	unit 2 文法 現在形と現在進行形	8M	unit 2 リスニング Getting along with your neighbors　隣人との付き合い方
9T	unit 2 読解 The happiness quiz	10M	unit 3 会話 What's in the news? 気になるニュースについて
11T	unit 3 文法 過去形、過去進行形	12M	unit 3 リスニング Transcribing a news story ニュースを聞きとる
13T	unit 3 読解 Reading a news story 新聞記事を読む	14M	unit 3 英作文 Narrative writing 物語を完成させる
15T	**unit 1 から unit 3 までの振り返り、Mid-term examination**	16M	unit 4 会話 Talking about a restaurant レストランについて語る
17T	unit 4 文法 数えられる名詞、数えられない名詞	18M	unit 4 リスニング Our diet　ダイエット
19T	unit 4 読解 Unusual places to eat 珍しいレストラン	20M	unit 4 英作文 Writing an email to a friends メールを送る
21T	unit 5 文法 動詞のパターン want to, would like to, looking forwad to など	22M	unit 5 会話 Looking forward 予定や計画について語る
23T	unit 5 読解 Hope for the future あなたの将来は	24M	unit 5 リスニング How does it feel to be 20-something？20 代の気持ち
25T	unit 5 英作文 将来の夢について	26M	unit 6 会話 Talking about your town 自分の住む町について
27T	unit 6 文法 比較級について	28M	unit 6 リスニング What's happening in LA? LA で何が起こっている？
29T	unit 6 読解 Multicultural London ロンドンに住む人々	30M	**unit 4 から unit 6 までの振り返り Final examination**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **プレイスメントテストで C クラスの指定を受けた学生対象のクラスです。教科書は *American Headway: Student book 2* (Third edition)を使います。A,B,D クラスとは教科書が異なります。**

- 授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、担当教師と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉(30%)、課題提出・小テスト（20%)、中間・期末試験（50%）
上の評価方法に沿って、2 名の担当教員の評価を合算し、合議の上、最終評価を決定する。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：・ Liz and John Soars, *American Headway: Student book 2,* third edition
(Oxford University Press, 2009) 4 月に学内で教科書販売があるので、その際に必ず購入すること。
・多読クラス読書記録手帳（株式会社エスイージー、古川昭夫）

□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student
あるいは、英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17111	英語Ⅰ Dクラス(月曜、木曜・１限) *American Headway 3* コース	２単位 前期	1～4	演習	クリストファー・メリー（非） 〈Dクラス〉

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能を総合的に向上させ、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活や社会性の高い話題について円滑なコミュニケーションができる。
・英文法を幅広く理解し、日常生活の話題や社会性の高い文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法

1	*Orientation*	2	unit 1 grammar
3	unit 1 reading	4	unit 1 listening, conversation
5	unit 1 writing	6	unit 2 grammar
7	unit 2 reading	8	unit 2 listening, conversation
9	unit 2 writing	10	unit 3 grammar
11	unit 3 reading	12	unit 3 listening, conversation
13	unit 3 writing	14	unit 3 presentation
15	**Review & Mid-term examination**	16	unit 4 grammar
17	unit 4 reading	18	unit 4 listening, conversation
19	unit 4 writing	20	unit 4 discussion
21	unit 5 grammar	22	unit 5 reading
23	unit 5 listening, conversation	24	unit 5 writing
25	unit 5 discussion	26	unit 6 grammar
27	unit 6 reading	28	unit 6 listening, conversation
29	unit 6 writing	30	**Review and final examination**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **プレイスメントテストでDクラスの指定を受けた学生対象のクラスです。教科書は*American Headway Student Book 3*を使います。A,B,Cクラスとは教科書が異なりますので注意して下さい。**
- 授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師（高良）と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加､プレゼンテーション〉･課題提出･小テスト(50%)､中間･期末試験(50%)。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：・ Liz and John Soars, *American Headway: Student book 3,* third edition
(Oxford University Press, 2009)4 月に学内で教科書販売があるので、その際に必ず購入すること。
・多読クラス読書記録手帳　(株式会社エスイージー、古川昭夫)

□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student
英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17111	英語Ⅰ Ｅクラス(水曜、金曜・2限)	２単位 後期	1～4	演習	高良　則子〈Ｅクラス〉

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

英語Ⅰ（Eクラス）は前期に英語Ⅰを受講したものの、単位を取得できなかった学生を対象とした再履修クラスです。前期に開設されたクラスのシラバス内容に沿って 3 グループに分かれて行う Exercise、視聴覚教材を利用した Listening exercise、および多読を組み合わせて授業を行います。国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能を総合的に向上させ、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。

■到達目標

教科書で取り上げる英語表現を使って円滑なコミュニケーションができる。
英文法を理解し、語彙力を高めることによって、さまざまな文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法

1	*Orientation*	2	unit 1 会話　Introducing yourself
3	unit 1 文法　Verb to be, Possessive	4	unit 1 リスニング Perfonal information
5	unit 1 読解　A student's blog	6	unit 2 会話　What time is it?　Role play
7	unit 2 文法　Simple Present, Questions and negatives	8	unit 2 リスニング People and their jobs
9	unit 2 読解　A really good job	10	unit 3 会話　Social expressions
11	unit 3 文法　Simple present, Adverbs of frequesncy	12	unit 3 リスニング　In my free time…
13	unit 3 読解　Perfect weekend	14	unit 3 英作文　Filling out forms
15	**unit 1 から unit 3 までの振り返り、小テスト**	16	unit 4 会話　Numbers and Prices
17	unit 4 文法　There is/are, some/any/a lot of	18	unit 4 リスニング　What's in your bag?
19	unit 4 英作文 Describing your home	20	unit 4 読解　America's most famous address
21	unit 5 会話　What can you do? Talking about you	22	unit 5 文法　can/can't, Advers, was/were/could
23	unit 5 リスニング　Child prodigies	24	unit 5 英作文　Writing an email
25	unit 5 読解　A talented family	26	unit 6 会話　What's the date?
27	unit 6 文法　Simple past, Time expressions	28	unit 6 リスニング　Interview
29	unit 6 読解　The meaning of life	30	**unit 4 から unit 6 までの振り返り、まとめのテスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **再履修者を対象としたクラスです。2 年生以上の学生も条件を満たしていれば受講できます。**
- 授業には必ず**前期で使用した教科書**、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。オフィス・アワーを積極的に利用して、担当教師と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加・多読〉(50%)、課題提出・小テスト (50%)。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：前期に使用した *Headway* シリーズのテキスト。多読記録手帳。
□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student 英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17112	英語Ⅱ　Aクラス （火曜、金曜・１限） American Headway 1コース	２単位 後期	1～4	演習	フレデリック・ロバト（非）

■テーマ　　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業の概要

英語Ⅰ同様、国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能の基礎力の定着を図り、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し基礎的な文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活に必要な基礎的なコミュニケーションができる。
・基礎的な英文法を理解し、簡単な文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法

1	Orientation	2	unit7 会話　Talking about my life
3	unit7 文法 Simple past, questions and negatives	4	unit7 リスニング　Telling a story
5	unit7 読解　Sixty years of flight	6	unit8 会話　Shopping on Main Street
7	unit8 文法　Count and noncount nouns	8	unit8 リスニング What's your favorite sandwich?
9	unit8 読解　The history of the sandwich	10	unit9 会話　Directions, comparing cities
11	unit9 文法　Comparatives and superlatives	12	unit9 リスニング Talking about where they live
13	unit9 読解　Megacities	14	unit9 英作文　Describing a place
15	unit 7 から unit 9 までの振り返り Mid-term Examination	16	unit10 会話　Describing people
17	unit10 文法　Present continuous	18	unit10 リスニング Interview with an astronaut
19	unit10 読解　Living in space	20	unit10 英作文　Comparing people you know
21	unit11 文法 be going to～, infinitive of purpose	22	unit11 会話　Making suggestions
23	unit11 読解　Dream it, then do it	24	unit11 リスニング　What's the weather like?
25	unit11 英作文　Describing a vacation	26	unit12 会話　Transportation and travel
27	unit12 文法　Present perfect, tense review	28	unit12 リスニング　The Glastonbury festival
29	unit12 読解　I've been to Glastonbury!	30	unit 10 から unit 12 までの振り返り Final Examination

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・英語Ⅰに引き続き、Aクラスでは *American Headway: Student book 1* を教科書として使います。
・授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
・授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
・オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師（髙良）と学習相談をすることを勧めます。
・遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点および課題提出（50%）、中間・期末試験（50%）。
□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：Liz and John Soars, *American Headway: Student book 1*, third edition (Oxford University Press, 2009) 4 月に学内で教科書販売があるので、その際に必ず購入すること。
□辞　書：Oxford Learner's Pocket Dictionary or Oxford Wordpower Dictionary for the enthusiastic student　あるいは、英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17112	**英語Ⅱ** **Bクラス(月曜、木曜・１限)** ***American Headway 1* コース**	**２単位** **後期**	**1～4**	**演習**	**渡久山　幸功（非）** **ジョージ・マクレイン（非）**

■テーマ　　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

英語Ⅰ同様、国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能の基礎力の定着を図り、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し基礎的な文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。ネイティブスピーカーの教員が主にコミュニケーションアクティビティを行い、日本人教員がテキストを中心に英文法の説明を行います。

■学習目標

教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活に必要な基礎的なコミュニケーションができる。

英語Ⅰの延長として、基礎的な英文法を理解し、簡単な文章を読んだり、書いたり、聞いたり、話したりすることができる。

■授業計画・方法（授業回数の後のアルファベットが担当予定者：T＝渡久山、M＝マクレイン）

1T	*Orientation*	2M	unit 7 会話 Talking about my life
3T	unit 7 文法 Simple past, questions and negatives	4M	unit 7 リスニング Telling a story
5T	unit 7 読解 Sixty years of flight	6M	unit 8 会話 Shopping on Main Street
7T	unit 8 文法 Count and noncount nouns	8M	unit 8 リスニング What's your favorite sandwich?
9T	unit 8 読解 *The history of the sandwich*	10M	unit 9 会話 Directions, comparing cities
11T	unit 9 文法 Comparatives and superlatives	12M	unit 9 リスニング Talking about where they live
13T	unit 9 読解 Megacities	14M	unit 9 英作文 Describing a place
15T	**unit 7 から unit 9 での振り返り、Mid-term examination**	16M	unit 10 会話 Describing people
17T	unit 10 文法 Present continuous	18M	unit 10 リスニング Interview with an astronaut
19T	unit 10 読解 *Living in space*	20M	unit 10 英作文 Comparing people you know
21T	unit 11 文法 be going to～, infinitive of purpose	22M	unit 11 会話 Making suggestions
23T	unit 11 読解 *Dream it, then do it*	24M	unit 11 リスニング What's the weather like?
25T	unit 11 英作文 Describing a vacation	26M	unit 12 会話 Transportation and travel
27T	unit 12 文法 Present perfect, tense review	28M	unit 12 リスニング The Glastonbury festival
29T	unit 12 読解 *I've been to Glastonbury!*	30M	**unit 10 から unit 12 までの振り返り、review、期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 英語Ⅰに引き続き、**Bクラスでは *American Headway: Student book 1* を教科書として使います。**
- 授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉（20%）、課題提出・小テスト（35%）、中間・期末試験（30%）
プレゼンテーション（15%）。２名の担当教員の評価を合算して、合議の上評価を決定する。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：Liz and John Soars, *American Headway: Student book 1,* third edition
(Oxford University Press, 2009) 前期使用した教科書を引き続き使います。

□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student
英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17112	英語Ⅱ Ｃクラス(火曜、金曜・１限) *American Headway 2*コース	２単位 後期	1～4	演習	高良　則子 クリストファー・メリー（非） 〈Ｃクラス〉

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

英語Ⅰ同様、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能を総合的に向上させ、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。

日本人講師とネイティブ講師とのペア・ティーチング・クラスです。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活の出来事について円滑なコミュニケーションができる。
・英文法を理解し、日常生活での説明的・実用的な文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法（授業回数の後のアルファベットが担当予定者：T＝高良、M＝メリー）

1T	*Orientation*，　前期の復習	2M	unit 7 会話 Your family history 家族の歴史
3T	unit 7 文法　現在完了形	4M	unit 7 リスニング David Taylor Bews' の家族史
5T	unit 7 読解　The Life of Kenndy ケネディーの一生	6M	unit 8 会話　At the doctor's　病院での会話
7T	unit 8 文法　助動詞	8M	unit 8 リスニング
9T	unit 8 読解　Families with all boys or all girls 家族と子供	10M	unit 9 会話　What was the last book you read? 本について語る
11T	unit 9 文法　過去完了、接続詞	12M	unit 9 リスニング　My favorite writer 好きな作家を紹介するラジオ番組
13T	unit 9 読解　Good and evil 『ジギル博士とハイド氏』から	14M	unit 9 英作文　Writing a review 本や映画のレビューを書いてみる
15T	**unit 7 から unit 9 までの振り返り、Mid-term examination**	16M	unit 10 会話　Telephon conversation 電話での会話
17T	unit 10 文法　受動態	18M	unit 10 リスニング　The Internet and modern life　ネット社会
19T	unit 10 読解　Five Internet firsts 「ネット上、初の～」	20M	unit 10 英作文　Writing about pros and cons SNS について意見を書く
21T	unit 11 文法　現在完了進行形	22M	unit 11 会話　Telling good news or bad news いい知らせ・悪い知らせ
23T	unit 11 読解　Four generations of Gettys 4 世代の物語	24M	unit 11 リスニング　'I haven't seen you for long time'「久しぶりね」
25T	unit 11 英作文　Completing an application form　願書を記入する	26M	unit 12 会話　What do you think? アドバイスをする
27T	unit 12 文法　仮定法	28M	unit 12 リスニング　At a crossroad 道でばったり会った友人と
29T	unit 12 読解　*The Wonders of our Universe* から　『宇宙の不思議』から	30M	**unit 10 から unit 12 までの振り返り、Final examination**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 英語Ⅰに引き続き**Ｃクラスは*American Headway: Student book 2*を教科書に使います。**
- 授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書のUnitの予習（30分）と復習（30分）を心がけること。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師（髙良）と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉(30%)、課題提出・小テスト（20%)、中間・期末試験（50%）上の評価の方法に沿って、2名の担当教員の評価を合算し、合議の上最終評価を決定する。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：Liz and John Soars, *American Headway: Student book 2,* third edition (Oxford University Press, 2009) 前期使用した教科書と多読記録手帳を引き続き使います。

□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student 英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17112	英語Ⅱ Dクラス(月曜、木曜・１限) *American Headway 3*コース	２単位 後期	1~4	演習	クリストファー・メリー（非） 〈Dクラス〉

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

英語Ⅰ同様、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能を総合的に向上させ、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。教科書や多読用図書、視聴覚教材等を活用し、英語圏の社会や文化に触れながら様々な状況で用いられる英語表現を習得します。同時に、語彙力を強化し文法の理解を深めることによって、英語による発信力を養います。

■到達目標

・教科書で取り上げる英語表現を使って日常生活や社会性の高い話題について円滑なコミュニケーションができる。
・英文法を幅広く理解し、日常生活の話題や社会性の高い文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法

1	*Orientation*	2	unit 7 grammar
3	unit 7 reading	4	unit 7 listening, conversation
5	unit 7 writing	6	unit 8 grammar
7	unit 8 reading	8	unit 8 listening, conversation
9	unit 8 writing	10	unit 9 grammar
11	unit 9 reading	12	unit 9 listening, conversation
13	unit 9 writing	14	unit 9 presentation
15	**Review & Mid-term examination**	16	unit 10 grammar
17	unit 10 reading	18	unit 10 listening, conversation
19	unit 10 writing	20	unit 10 discussion
21	unit 11 grammar	22	unit 11 reading
23	unit 11 listening, conversation	24	unit 11 writing
25	unit 11 disucssion	26	unit 12 gramamr
27	unit 12 reading	28	unit 12 listening
29	unit 12 writing	30	**Review and final examination**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 英語Ⅰに引き続き**Dクラスは*American Headway: Student Book 3*を教科書として使います。**
- 授業には必ず教科書、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、外国語担当教師（髙良）と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加、プレゼンテーション〉・課題提出・小テスト(50%)、中間・期末試験(50%)。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：Liz and John Soars, *American Headway: Student book 3,* third edition (Oxford University Press, 2009)前期使用した教科書と多読記録手帳を引き続き使います。

□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student
英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17112	英語Ⅱ Ｅクラス(水曜２限、金曜２限)	２単位 前期	1～4	演習	高良　則子〈Ｅクラス〉

■テーマ　英語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

英語Ⅱ（Ｅクラス）は後期に英語Ⅱを受講したものの、単位を取得できなかった学生を対象とした再履修クラスです。前期に開設されたクラスのシラバス内容に沿って 3 グループに分かれて行う Exercise、視聴覚教材を利用した Listening exercise、および多読を組み合わせて授業を行います。国際共通語としての英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能を総合的に向上させ、バランスのとれたコミュニケーション能力を養成します。

■到達目標

教科書で取り上げる英語表現を使って円滑なコミュニケーションができる。
英文法を理解し、語彙力を高めることによって、さまざまな文章を読んだり書いたりすることができる。

■授業計画・方法

1	*Orientation*	2	unit 7 会話 Talking about my life
3	unit 7 文法 Simple past, questions and negatives	4	unit 7 リスニング Telling a story
5	unit 7 読解 Sixty years of flight	6	unit 8 会話 Shopping on Main Street
7	unit 8 文法 Count and noncount nouns	8	unit 8 リスニング What's your favorite sandwich?
9	unit 8 読解 *The history of the sandwich*	10	unit 9 会話 Directions, comparing cities
11	unit 9 文法 Comparatives and superlatives	12	unit 9 リスニング Talking about where they live
13	unit 9 読解 Megacities	14	unit 9 英作文 Describing a place
15	**unit 7 から unit 9 までの振り返り、小テスト**	16	unit 10 会話 Describing people
17	unit 10 文法 Present continuous	18	unit 10 リスニング Interview with an astronaut
19	unit 10 読解 *Living in space*	20	unit 10 英作文 Comparing people you know
21	unit 11 文法 be going to～, infinitive of purpose	22	unit 11 会話 Making suggestions
23	unit 11 読解 *Dream it, then do it*	24	unit 11 リスニング What's the weather like?
25	unit 11 英作文 Describing a vacation	26	unit 12 会話 Transportation and travel
27	unit 12 文法 Present perfect, tense review	28	unit 12 リスニング The Glastonbury festival
29	unit 12 読解 *I've been to Glastonbury!*	30	**unit 10 から unit 12 までの振り返り、まとめのテスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **再履修者を対象としたクラスです。２年生以上の学生も条件を満たしていれば受講できます。**
- 授業には必ず**後期で使用した教科書**、辞書、ノートを持参してください。
- 授業内容の理解を深めるために、毎回授業の前後に、計画された教科書の Unit の予習（30 分）と復習（30 分）を心がけること。オフィス・アワーを積極的に利用して、担当教師と学習相談をすることを勧めます。
- 遅刻・欠席をしないこと。授業回数の３分の１以上欠席すると自動的に不可となります。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加・多読〉(50%)、課題提出・小テスト (50%)。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：前期に使用した *Headway* シリーズのテキスト。多読記録手帳。
□辞　書：*Oxford Learner's Pocket Dictionary* or *Oxford Wordpower Dictionary* for the enthusiastic student
英英辞書収録の電子辞書

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17163 (17113)	英語講読Ａ （英語Ⅲ） （火曜２限）	２単位 前期	1～4	講義	高良　則子

■テーマ　　精読・多読で伸ばす英語読解力

■授業概要

この授業では、英語の様々な文章を読むことによって英語の読解力を養います。授業は精読と多読を組み合わせて進めていきます。精読では、頻出単語 1000 語から 2000 語レベルの文章を取り上げ、英語の文構造を理解しながら英文を読み進める基礎体力をつけます。多読授業では、YL1 レベルの本を中心に読みますが、同時にテキストの聞き読みやパラレルリーディングを実践し、文字と音声によるインプットを増やします。日本語に訳することなく英語の文章の流れに沿って「英語で味わう・理解する」Reading Fluency を獲得します。

■到達目標

- 英語の文構造を理解し、頻出単語 1000 語から 2000 語レベルの文章の大意を理解することができる。
- 辞書を引かずに簡単な英語図書（YL1 レベル）を読み、その内容を理解することができる。
- 授業内外で多読に取り組み、読書量（目標は 3 万語）を増やし、読書スピードを向上させる。

■授業計画・方法

(1)　Introduction: 精読（intensive reading）と 多読（extensive reading）について
(2)　精読１　多読：Graded Readers
(3)　精読２　多読：Graded Readers
(4)　精読３　多読：Graded Readers
(5)　精読４　多読：Graded Readers
(6)　精読５　多読：Graded Readers
(7)　精読６　多読：Graded Readers
(8)　精読７　多読：Graded Readers
(9)　精読８　多読：Graded Readers
(10)　精読９　多読：Graded Readers
(11)　精読１０　多読：Graded Readers
(12)　精読１１　多読：Graded Readers
(13)　精読１２　多読：Graded Readers
(14)　精読１３　多読：Graded Readers
(15)　プレゼンテーション　多読：Graded Readers

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 精読用資料の予習をしておくこと。（学習時間の目安：２時間）
- 毎週２時間を目安に、授業外で多読図書を読み、読書記録をつけ、毎回の授業に本と記録用紙を持参すること。
- 速読の練習として、多読の前に Speed Reading Exercise を行う。
- **期末試験は実施しない。最後にプレゼンテーションを行う。**

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点（30%）、Speed Reading（15%）、課題（15%）、多読活動（20%）、プレゼンテーション（20%）。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：①精読用の資料は授業内に配布します。②Graded Readers などの多読用図書。
③多読クラス読書記録手帳　（株式会社エスイージー、古川昭夫）【4 月の教科書販売時に購入できる】
□参考書：古川昭夫、河手真理子『今日から読みます　英語 100 万語！』（コスモピア 2004 年）
□辞　書：*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17164 (17114)	英語講読Ｂ（英語Ⅳ）（A） （火曜２限）	２単位 後期	1～4	講義	高良　則子

■テーマ　　精読・多読で伸ばす英語読解力

■授業概要

この授業では、英語の様々な文章を読むことによって英語の読解力を養います。授業は精読と多読を組み合わせて進めていきます。精読では、頻出単語 2000 語から 3000 語レベルの文章を取り上げ、英語の文構造やパラグラウ構造を理解しながら英文を読み進める基礎体力をつけます。多読授業では、YL1.5 レベルの本を中心に読みますが、同時にテキストの聞き読みやパラレルリーディングを実践し、文字と音声によるインプットを増やします。日本語に訳することなく英語の文章の流れに沿って「英語で味わう・理解する」Reading Fluency を獲得します。

■到達目標

- 英語の文やパラグラフ構造を理解し、頻出単語 2000 語から 3000 語レベルの文章を理解することができる。
- 辞書を引かずに簡単な英語図書（YL1.5 レベル）を読み、その内容を理解することができる。
- 授業内外で多読に取り組み、読書量（目標は 5 万語）を増やし、読書スピードを向上させる。

■授業計画・方法

(1)　Introduction: 精読（intensive reading）と 多読（extensive reading）
(2)　精読１　多読：Graded Readers
(3)　精読２　多読：Graded Readers
(4)　精読３　多読：Graded Readers
(5)　精読４　多読：Graded Readers
(6)　精読５　多読：Graded Readers
(7)　精読６　多読：Graded Readers
(8)　精読７　多読：Graded Readers
(9)　精読８　多読：Graded Readers
(10)　精読９　多読：Graded Readers
(11)　精読１０　多読：Graded Readers
(12)　精読１１　多読：Graded Readers
(13)　精読１２　多読：Graded Readers
(14)　精読１３　多読：Graded Readers
(15)　プレゼンテーション　多読：Graded Readers

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **この（A）クラスは、英語Ⅰ・Ⅱの（A）・（B）クラスを履修した学生を対象とする。（C）・（D）クラスを履修した学生は、水曜日１時限目の（B）クラスの受講を勧める。**
- 精読用資料の予習をしておくこと。（学習時間の目安：２時間）
- 毎週２時間を目安に、授業外で多読図書を読み、読書記録をつけ、毎回の授業に本と記録用紙を持参すること。
- 速読の練習として、多読の前に Speed Reading Exercise を行う。
- 平成 26 年度以前入学の学生は「英語Ⅳ」を登録すること。
- **期末試験は実施しない。最後にプレゼンテーションを行う。**

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点（30%）、Speed Reading（15%）、課題（15%）、多読活動（20%）、プレゼンテーション（20%）。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：①精読用の資料は授業内に配布します。②Graded Readers などの多読用図書。
③多読クラス読書記録手帳（株式会社エスイージー、古川昭夫）
□参考書：古川昭夫、河手真理子『今日から読みます　英語 100 万語！』（コスモピア 2004 年）
□辞　書：*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17164 (17114)	英語講読Ｂ（英語Ⅳ）(B) （水曜１限）	２単位 後期	1～4	講義	高良　則子

■テーマ　　精読・多読で伸ばす英語読解力、大学院入試に向けての英語力向上

■授業概要

精読と多読を通して英語の Reading Fluency を更に高めていきます。頻出単語 4000 語から 6000 語レベルの専門分野に関連した英語の文章を読みこんでいきます。パラグラフリーディングの手法で要点を把握し、文章の大意をつかむ練習や英文和訳の実践を取り入れることによって、この授業は大学院入試の英語問題対策にもなります。多読授業では、本の選び方を習得し、自立した読者としてより効果的に読書量を増やすコツを学んでいきます。

■到達目標

- 読解技法を用いて、専門分野に関連する英語の文章を読みこなすことができる。
- 日本語に和訳することなく英語の文章を速読する力を身につける。
- 授業内外で多読に取り組み、読書量（目標は8万語）を増やし、読書スピードを向上させる。
- 辞書を活用しながら、専門分野に関連した文章の英文和訳ができる。

■授業計画・方法

(1)　Introduction: 精読（intensive reading）と 多読（extensive reading）
(2)　精読１　多読：Graded Readers
(3)　精読２　多読：Graded Readers
(4)　精読３　多読：Graded Readers
(5)　精読４　多読：Graded Readers
(6)　精読５　多読：Graded Readers
(7)　精読６　多読：Graded Readers
(8)　精読７　多読：Graded Readers
(9)　精読８　多読：Graded Readers
(10)　精読９　多読：Graded Readers
(11)　精読１０　多読：Graded Readers
(12)　精読１１　多読：Graded Readers
(13)　精読１２　多読：Graded Readers
(14)　精読１３　多読：Graded Readers
(15)　プレゼンテーション　多読：Graded Readers

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **英語講読の（B）クラスは、英語Ⅰ・Ⅱの（C）・(D）クラスを履修した学生を対象とする。(A)・(B）クラスを履修した学生は要相談。**
- 精読用資料の予習をしておくこと。(学習時間の目安：２時間)
- 毎週２時間を目安に、授業外で多読図書を読み、読書記録をつけ、毎回の授業に本と記録用紙を持参すること。
- 速読の練習として、多読の前に Speed Reading Exercise を行う。
- オフィス・アワーを積極的に利用して、学習相談をすることを勧めます。
- 平成 26 年度以前入学の学生は「英語Ⅳ」を登録すること。
- **期末試験は実施しない。最後にプレゼンテーションを行う。**

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点（30%）、Speed Reading（15%）、課題（15%）、多読活動（20%）、英文和訳問題（20%）。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：①精読用の資料は授業内に配布します。②Graded Readers などの多読用図書。
③多読クラス読書記録手帳（株式会社エスイージー、古川昭夫）
□参考書：古川昭夫、河手真理子『今日から読みます　英語 100 万語！』(コスモピア 2004 年)
□辞　書：*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17165 (17115)	英文法 （英語Ⅴ）	２単位 前期	1～4	講義	高良　則子

■テーマ　　英文法：知識から応用へ

■授業概要

英文法の定着をはかり、長文読解や英作文能力の向上を図ります。英文の文法書を活用し、なるべく多くの例文を読み込んでいくことで英語の文法構造を理解していきます。そして、英文法の知識を用いて正しい英文を書く習慣を身につけていきます。

■到達目標

英語の文構造を理解し、英文を正確に読み取ることができる。文法の知識を用いて正しい英文を書くことができる。

■授業計画・方法

毎回の授業では、指定された文法項目の解説を行い、理解を深めるためのエクササイズや応用のための英文読解や英作文などを進めていきます。

（1）　Orientation and quiz,　単語・文型
（2）　現在形と過去形
（3）　現在完了形と過去形
（4）　未来を表す表現
（5）　助動詞
（6）　仮定法と wish
（7）　受動態
（8）　復習・中間試験
（9）　間接話法、疑問文と助動詞
(10)　ing 形と to…
(11)　名詞と冠詞
(12)　代名詞と名詞の間にくる語（限定詞）
(13)　関係節
(14)　形容詞と副詞
(15)　接続詞と前置詞

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 予習をし、指定された練習問題を事前に解いて授業に参加するようにして下さい。（毎週４時間程度）
- 宿題の提出期限を厳守して下さい。
- 授業には必ず配布資料と辞書を持参し、遅刻・欠席をしないこと。３分の１以上欠席すると不可となります。
- 平成 26 年度以前入学の学生は「英語Ⅴ」を登録すること。
- **期末試験は実施しない。**学期末には課題を与える。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉（20%）宿題（30%）中間試験（30%）作文・読解課題（20%）を総合的に判断して評価します。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：　Raymond Murphy, William R. Smalzer　渡辺雅仁・田島祐規子訳『マーフィーの英文法』第３版
(Cambridge University Press)【4 月の教科書販売時に必ず購入すること】
多読クラス読書記録手帳（株式会社エスイージー、古川昭夫）
【4 月の教科書販売時に必ず購入すること。既に所有している学生は買い求める必要はありません。】

□辞　書：　*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17166 (17116)	英作文 (英語VI)	２単位 後期	1~4	講義	クリストファー・メリー(非)

■テーマ　パラグラフライティングからエッセイライティングへ

■授業概要

このクラスは、英作文の基礎となるパラグラフの構造を理解し、論理性のある文章の構築方法を学び、ライティングによるコミュニケーション力の向上を図る。異なったタイプのパラグラフ展開の文章を読み比べ、それらの効果的な活用方法を習得する。そして、パラグラフライティングを論理的に一貫性のある「エッセイ」へと発展させる演習を行う。実践的なプロジェクトとして、参加者は２つの英文エッセイを書いて発表する。講義では、手紙や電子メールや履歴書の書き方についても紹介していく。

■到達目標

英語のパラグラフ構造を理解し、目的に適したパラグラフパターンを用いて英語の文章を書くことができる。

■授業計画・方法

・パラグラフライティング演習：クラスや自宅で演習課題を行い、クラスで提出する。
　パラグラフの種類：description, narrative, comparison-contrast, classification, definition, argument.
・エッセイライティングプロジェクト： ２つのエッセイを提出する。Biographical 及び Argument
・小テスト：取り上げられる様々な重要文法、語彙の理解を深めるために小テストを行う。
・ジャーナル：配布されたノートに芸術、音楽に関することについて自分が好きなトピック、自由な形式で文章を書く。自分の考えを表現するために雑誌の切り抜きや絵を描いても構わない。ジャーナルをクリスマスの前に一度と学期の終わりに一度提出する。

週	講　義	プロジェクトに関するスケジュール
1	Introduction	□　授業で取り上げる課題を理解する
2	Brainstorming and Choosing a Topic	□　テーマを考える
3	Paragraph Structure	
4	Type 1: Description	□　エッセイのアウトラインを提出する
5	type 2: Narrative	
6	type 3: Comparison-Contrast	
7	type 4: Classification	□　Essay 1 - First Draft を提出する
8	type 5: Definition	Journal Due
9	type 6: Argument	
10	Coherence and Cohesion	□　Essay 1 - Second Draft を提出する
11	Revising and Editing (1)	
12	Revising and Editing (2)	
13	E-mail and Letter Writing	□　Essay 2 - First Draft を提出する
14	Proofreading	Journal Due
15	Resume Writing, Final presentation	Essay 2 - Final Draft を提出する

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- **英語を４単位以上履修済み**であることが望ましい。仮登録が必要な科目です。(直接 WEB 登録はできません)
- 事前に、科目番号 (11045)「国語表現法」を履修することを薦めます。
- 様々な資料を用意しますので、各自ファイルを用意し、辞書と共に毎回授業に持参してください。
- 授業外で文章作成のための時間を確保し(毎週３～４時間程度)課題の提出期日・プロジェクトのスケジュール厳守すること。
- 平成 26 年度以前入学の学生は「英語Ⅴ」までを履修済みであること。授業名は「英語VI」で登録すること。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉(10%)、パラグラフライティング課題 (40%)、２つの英文エッセイ (20%, 各 10%)、ジャーナル (20%)、プレゼンテーション(10%)、を総合的に判断して評価する。**期末試験は実施しない。**
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等　内容・課題に関する資料はクラスで配布します。

□教科書：「大学生のためのエッセイライティング入門　-Real Writing」南雲堂

□辞書：英和和英辞書、*The Kenkyusha Dictionary of English Collocations*, *Oxford Dictionary & Thesaurus* 等。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17161	英語特演Ⅰ	２単位 前期	1～4	講義	髙良　則子

■テーマ　TOEIC 演習で身につける英語実践力

■授業概要

英語のコミュニケーション能力を評価する世界共通のテスト、TOEIC は、実用的な英語力の必要性が高まる昨今、国内就職や、キャリアアップ、コミュニケーション能力をアピールするために受験者数が年々伸びてきています。英語力のスキル測定としても比重の重くなっている TOEIC の問題を授業に取り入れ、TOEIC テストの特徴と傾向を講義し、その試験に焦点を合わせた英語語彙力のアップ、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの実践（練習問題を解く）を行います。

■到達目標

TOEIC テストでは、英語圏での日常生活と日常業務で使われる英語力が問われますが、英語特演Ⅰでは、主にコミュニケーションのためのリスニング・リーディング力と実践的な読解力の向上を図り、今学期で 200 点以上のアップを目指します。

■授業計画・方法〈TOEIC テストの各パートの解説と練習問題を行う。事前に問題を解いてくること〉

（1）オリエンテーション: TOEIC の解説および模擬テスト
（2）TOEIC exercise 1　Listening Part 1
（3）TOEIC exercise 2　Listening Part 2
（4）TOEIC exercise 3　Listening Part 3
（5）TOEIC exercise 4　Listening Part 4
（6）TOEIC exercise 5　Listening Section Review
（7）TOEIC exercise 6　Reading Part 5 Grammar
（8）TOEIC exercise 7　Reading Part 5 Vocabulary
（9）TOEIC exercise 8　Reading Part 6 Basics
(10) TOEIC exercise 9　Reading Part 6 Advanced
(11) TOEIC exercise 10 Reading Part 7 1 passage 問題
(12) TOEIC exercise 11 Reading Part 7 2 paggages 問題
(13) TOEIC exercise 12 Reading Part 7 3 paggages 問題
(14) TOEIC exercise 13 Speaking & Writing Test
(15) TOEIC exercise Review, **期末試験**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 英語を４単位以上履修済みであることが望ましい。仮登録が必要な科目です。（直接 WEB 登録はできません）
- 様々な資料を用意しますので、各自ポートフォリオ用のバインダーを用意してください。
- 授業には必ず、配付したプリントと辞書を持参して下さい。
- 毎日 30 分の宿題をこなすことが要求されます。
- 学期内あるいは夏休みに TOEIC テストを受験することを推奨する。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点(30%)、宿題（30%)、期末試験（40%）等を総合的に判断して評価します。
なお、授業回数の３分の１以上（5 回以上）欠席すると自動的に不可になるので、注意してください。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：第一回目の授業で行う模擬テストの結果を見て、決定し、担当教員が購入方法を指示します。
多読クラス読書記録手帳（株式会社エスイージー、古川昭夫）
【4 月の教科書販売時に必ず購入すること。既に所有している学生は買い求める必要はありません。】

□参考書：ロバート・ヒルキ、ポール・ワーデン、ヒロ前田『新 TOEIC®テスト直前の技術』株式会社アルク（2006 年）
小石裕子『新 TOEIC テスト中学英文法で 600 点!』アルク（2008 年）
長本吉斉『TOEIC テスト 650 点突破!文法講義の実況中継』語学春秋社（2008 年）

□辞　書：*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English Oxford Wordpower Dictionary*

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17162	英語特演Ⅱ	２単位 後期	1～4	講義	髙良　則子

■テーマ　TOEFL 演習を通して留学に必要な英語力を磨く

■授業概要

英語圏の留学への外国人留学生向けの TOEFL テストの特徴と傾向を講義し、TOEFL の問題集を解くことによって英語語彙力のアップ、リスニング、リーディング、ライティングの実践（練習問題を解く）を行います。また、論理的に説明できるような英語のスピーキングの練習を行います。

■到達目標

外国語としての英語力が問われる TOEFL は、英語圏（特にアメリカ・カナダ）への留学志願者にとって第一の関門です。TOEFL では、Integrated Task（統合型問題）と呼ばれる問題が導入され、「読んで、聞いて、話す、書く」という総合的な英語学能力が評価されます。したがって、英語特演 II では、これまでに培った英語力を、より高度な理解力・運用能力へと発展させることを目的とします。（留学への目標スコ：PBT スコア 500 以上、CBT スコア 177 以上、iBT スコア 62 以上。）このクラスでの具体的な到達度目標は（1）大学での講義に通用できるような英語読解力をつける、（2）英語におけるコミュニケーションを円滑に行える、及び（3）英作文で論理的に記述できる力をつけることです。

■授業計画・方法

〈TOEFL の 4 つのセクションごとに、出題内容や形式を説明し、過去問題などを実際に解いて理解度を深める。練習問題を事前に解いて授業に参加すること〉

（1） オリエンテーション　模擬試験
（2） Reading (psychology)
（3） Reading (history)
（4） Reading (science)
（5） Reading (arts)
（6） Listening　キャンパスでの会話を聞き、設問に答える
（7） Listening 講義(humanities)を聞き、設問に答える
（8） Listening 講義(sociology)を聞き、設問に答える。
（9） Listening　講義(science)を聞き、設問に答える
(10) Speaking 一般的なトピックに関する意見を述べる
(11) Speaking　英文を読み、関連する講義を聞き、設問に答える
(12) Speaking　討論と短い講義を聞き、設問に答える
(13) Writing 単独問題
(14) Writing　統合問題
(15) Writing の模擬試験

※期末試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- <u>英語を６単位以上履修済み</u>であることが望ましい。仮登録が必要な科目です。(直接 WEB 登録はできません)
- 様々な資料を用意しますので、各自ポートフォリオ用のバインダーを用意してください。
- 授業には必ず、配付したプリントと辞書を持参して下さい。
- 毎週 4 時間の授業外学習が要求されます。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点（30%）、小テスト（20%）、課題（30%）TED report(20%)等を総合的に判断して評価します。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：第一回目の授業で行う模擬テストの結果を見て、決定し、担当教員が購入方法を指示します。
多読クラス読書記録手帳（株式会社エスイージー、古川昭夫）
【4 月の教科書販売時に必ず購入すること。既に所有している学生は買い求める必要はありません。】

□参考書：林功監訳　『ETS 公認ガイド新 TOEFL®iBT』McGraw-Hill Education （2013 年）
内宮慶一　『TOEFL テスト 一発で合格スコアをとる勉強法』KADOKAWA/中経出版（2014 年）
安宅由紀　『はじめて受ける TOEFL TEST iBT 完全攻略』テイエス企画（2010 年）

□辞　書：*Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English Oxford Wordpower Dictionary*

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17121	独語Ⅰ　Aクラス	２単位 前期	1~4	演習	吉井　巧一　（非）Aクラス

■テーマ　ドイツ語の基礎的なコミュニケーションスキルを習得する

■授業概要

日常生活の中での会話及びそのために必要な文法事項を、主にパートナー学習/グループ学習を通じて練習・修得する。

■到達目標

ドイツ語の総合的なコミュニケーション能力を養う。
ドイツ（語圏）の人々の生活、社会、文化に触れる。

■授業計画・方法

第１回　：オリエンテーション
第２回　：第1章　発音
第３回　：第1章　規則動詞の変化
第４回　：第1章　不規則動詞の変化1
第５回　：第1章　疑問文
第６回　：第1章の復習及び小テスト
第７回　：第2章　名詞の性
第８回　：第2章　定冠詞、不定冠詞
第９回　：第2章　名詞の格
第１０回：第2章　疑問代名詞
第１１回：第2章　並列の接続詞
第１２回：第2章の復習及び小テスト
第１３回：第3章　不規則動詞の変化2
第１４回：第3章　命令形
第１５回：第3章　人称代名詞の３格と４格
第１６回：第3章　語順
第１７回：第3章　非人称
第１８回：第3章　第3章の復習及び小テスト
第１９回：第4章　名詞の複数形
第２０回：第4章　定冠詞類
第２１回：第4章　不定冠詞類
第２２回：第4章　否定詞 keinとnichtについて
第２３回：第4章　否定疑問文
第２４回：第4章　第4章の復習及び小テスト
第２５回：第5章　前置詞1
第２６回：第5章　前置詞2
第２７回：第5章　前置詞3
第２８回：第5章　前置詞の融合形
第２９回：第5章　道案内
第３０回：第5章　**第5章の復習及び小テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

既習事項の理解・記憶を前提に次の授業をすすめる。
定期試験は実施しない。

■成績評価の方法・基準

□方法　出席を含めて授業への積極的参加（30%）、宿題・小テスト（70%）。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教 科 書：「アー・ツエット　楽しく学ぶドイツ語」（朝日出版社　2,700 円）
□参考書・辞書：講義時に指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17121	独語Ⅰ　Bクラス	２単位 前期	1～4	演習	漆谷　球美子（非）Bクラス

■テーマ　　ドイツ語の基礎的なコミュニケーションスキルを習得する

■授業概要

初めてドイツ語を学習する学生に向けたクラスである。基本的な文法事項を学習する。日常生活の中で利用できる会話をパートナー学習やグループ学習を通じて練習し、修得する。

■到達目標

自己紹介や道案内など簡単な会話を、ドイツ語で出来るようになる。
ドイツ（語圏）の人々の生活、社会、文化に触れることで、国際理解を深めることが出来るようになる。

■授業計画・方法

第１回：オリエンテーション、アルファベット
第２回：L1-1 発音、挨拶、主語になる人称代名詞
第３回：L1-2 動詞の現在人称変化（規則動詞）
第４回：L1-4　語順
第５回：L1-3　sein,haben の人称変化、数字
第６回：Dialog：Freut mich!
第７回：L2-1 名詞の性、冠詞
第８回：L2-2 名詞の格変化
第９回：L2-2 名詞の格変化
第10回：L2-3, L2-4 疑問代名詞、接続詞
第11回：Was sind Sie von Beruf?, 口頭テスト
第12回：ドイツ語圏アラカルト
第13回：名詞の格変化の練習
第14回：L3-1 動詞の現在人称変化（不規則動詞）
第15回：Dialog：Was ist dein Hobby?
第16回：L3-2 命令形
第17回：L3-3,L3-4 3格と4格
第18回：3-5 非人称のes
第19回：4-1 名詞の複数形
第20回：4-2　冠詞類
第21回：4-2　所有冠詞
第22回：4-3,4-4 否定疑問文
第23回：名詞の格変化まとめ
第24回：まとめ、筆記テスト
第25回：L5-1 前置詞の格支配
第26回：L5-2　前置詞と定冠詞の融合形
第27回：前置詞の練習問題
第28回：Dialog：Wie komme ich zur Konzerthalle?
第29回：道案内
第30回：**まとめ、最終課題。定期試験は実施しない。**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

既習事項の理解を前提に次の授業をすすめる。授業内で理解できなかった内容は、教科書を利用し、各自復習すること。ペア学習やグループ学習を多く取り入れるため、授業内の課題には積極的に取り組むこと。

■成績評価の方法・基準

□方法　口頭テスト（10%）、筆記テスト(30%)、最終課題(30%)、平常点（30%）
平常点は、授業への参加状況、課題やグループワークなどへの積極的な参加、コメントペーパーの提出状況で総合的に判断する。なお、三分の一以上欠席した者には、単位を与えない。
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教 科 書　［Deutsch A-Z］　朝日出版社　（ISBN 978－4－255－25420－3）
□参考書・辞書　独和辞典。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17122	独語Ⅱ　Aクラス	２単位 後期	1~4	演習	吉井　巧一（非）Aクラス

■テーマ　　ドイツ語の基礎的なコミュニケーションスキルを習得する

■授業概要

日常生活の中での会話及びそのために必要な文法事項を、主にパートナー学習/グループ学習を通じて練習・修得する。

■到達目標

ドイツ語の総合的なコミュニケーション能力を養う。
ドイツ（語圏）の人々の生活、社会、文化への理解を深める。

■授業計画・方法

第１回　：第６章　話法の助動詞
第２回　：第６章　未来形
第３回　：第６章　副文
第４回　：第６章　時刻
第５回　：第６章　不定代名詞
第６回　：第６章の復習及び小テスト
第７回　：第７章
第８回　：第７章　形容詞1
第９回　：第７章　形容詞2
第１０回：第７章　形容詞3
第１１回：第７章　比較
第１２回：第７章の復習及び小テスト
第１３回：第８章　分離動詞1
第１４回：第８章　分離動詞2
第１５回：第８章　非分離動詞
第１６回：第８章　zu不定詞1
第１７回：第８章　zu不定詞2
第１８回：第８章の復習及び小テスト
第１９回：第９章　動詞の３基本形
第２０回：第９章　現在完了形1
第２１回：第９章　現在完了形２
第２２回：第９章　現在完了形3
第２３回：第９章　現在完了形4
第２４回：第９章の復習及び小テスト
第２５回：第10章　過去形1
第２６回：第10章　過去形2
第２７回：第10章　過去形3
第２８回：第10章　再帰代名詞
第２９回：第10章　再帰動詞
第３０回：第10章の復習及び小テスト

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

既習事項の理解・記憶を前提に次の授業をすすめる。
定期試験は実施しない。

■成績評価の方法・基準

□方法　出席を含めて授業への積極的参加（30%）、宿題・小テスト（70%）。
□基準　到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教 科 書　「アー・ツエット　楽しく学ぶドイツ語」（朝日出版社　2,700 円）
□参考書・辞書　講義時に指示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17122	独語Ⅱ　Bクラス	各２単位 後期	1～4	演習	漆谷　球美子（非）Bクラス

■テーマ　ドイツ語の基礎的なコミュニケーションスキルを習得する

■授業概要

独Ⅰを受講した学生に向けた授業である。基本的な文法事項を学習する。日常生活の中で利用できる会話をパートナー学習やグループ学習を通じて練習し、修得する。

■学習目標

自己紹介や道案内など簡単な会話を、ドイツ語で出来るようになる。
ドイツ（語圏）の人々の生活、社会、文化に触れることで、国際理解を深めることが出来る。

■授業計画・方法

第１回：オリエンテーション、前期の復習
第３回：L6-1 話法の助動詞の現在人称変化
第４回：L6-2 未来形
第５回：L6-3 従属の接続詞と副文
第６回：助動詞の練習、L6-5 manの用法
第７回：L6-4 時刻の表現
第８回：時刻の表現、口頭テスト
第９回：Ich möchte Schloss Neuschwannstein besichtigen.
第10回：L7-1,L7-2 形容詞の格変化
第11回：L7-3　形容詞と副詞の比較
第12回：Dialog：　Was bekommen Sie?
第13回：Dialog：　Was bekommen Sie?
第14回：ドイツ語アラカルト
第15回：L8-1 分離動詞
第16回：L8-2 非分離動詞
第17回：L8-3 zu不定詞
第18回：Dialog：Was hast du am Wochenende vor?
第19回：L9-1 動詞の三基本形
第20回：L9-2 過去分詞にge-を付けない動詞
第21回：L9-3 現在完了形
第22回：Dialog：Was hast du am Wochenende gemacht?
第23回：現在完了形の練習問題
第24回：現在完了形のまとめ、筆記テスト
第25回：L10-1 過去形
第26回：L10-1 過去形
第27回：L10-2 再帰代名詞と再帰動詞
第28回：L10-2 再帰代名詞と再帰動詞
第29回：Dialog：Wo warst du gestern?
第30回：まとめ、最終課題。**定期試験は実施しない。**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

既習事項の理解を前提に次の授業をすすめる。授業内で理解できなかった内容は、教科書を利用し、各自復習すること。ペア学習やグループ学習を多く取り入れるため、授業内の課題には積極的に取り組むこと。独語Ⅰを受講済みであること。

■成績評価の方法・基準

□方法　口頭テスト（10%）、筆記テスト(30%)、最終課題(30%)、平常点（30%）
平常点は、授業への参加状況、課題やグループワークなどへの積極的な参加、コメントペーパーの提出状況で総合的に判断する。なお、三分の一以上欠席した者には、単位を与えない。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　［Deutsch A-Z］　朝日出版社　（ISBN 978－4－255－25420－3）

□参考書・辞書　独和辞典。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17123	独語Ⅲ	２単位 前期	1～4	講義	吉井　巧一（非）

■テーマ　　ドイツ語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

ドイツ語基礎修了者を対象とし、コミュニケーション能力の養成というコンセプトに基づき、高度な表現ができることを目指す。口頭練習を数多く取り入れながら、耳で文法構造を理解することを目標とする。さらに、発音に重点を置き、より正しい発音を段階的に練習する。

■到達目標

１．ドイツ語の中級レベルの文法や文構造を理解し、ドイツ語特有の発音ができるようになる。
２．自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになる。
３．ドイツ事情・ドイツ文化を知る。

■授業計画・方法

1	過去形と現在完了形
2	過去完了形
3	文化コーナー「ドイツの学生生活１」
4	現在分詞と過去分詞
5	文化コーナー「ドイツの学生生活２」
6	従属接続詞 dass と ob
7	動詞 wissen の使い方
8	中間のまとめ
9	es の用法
10	日本人に難しい発音を意識する
11	関係代名詞
12	文化コーナー「環境に配慮した生活」
13	冠飾句
14	文化コーナー「ドイツの日常生活」
15	復習とまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

独語Ⅰと独語Ⅱを修了した履修者を対象とする。

定期試験は実施しない。

■成績評価の方法

□方法　平常点「積極的な参加」(30%)、宿題・小テスト(70%)で評価する。

□基準　到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：「ドイツ語ネクスト・ステージ」(三修社　2,376 円)　　**参考書・辞書**：持参

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17124	独語Ⅳ	２単位 後期	1～4	講義	吉井　巧一（非）

■テーマ　　ドイツ語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

独語 III の続き。コミュニケーション能力の養成というコンセプトに基づき、高度な表現ができることを目指す。口頭練習を数多く取り入れながら、耳で文法の構造を理解することを目標とする。さらに、発音に重点を置き、より正しい発音を段階的に練習する。

■到達目標

１．ドイツ語の中級レベルの文法や文構造を理解し、ドイツ語特有の発音ができるようになる。
２．自分の日常生活をドイツ語で表現できるようになる。
３．ドイツ事情・ドイツ文化を知る。

■授業計画・方法

1	zu 不定詞
2	数詞
3	文化コーナー「パートナーシップと家族」
4	受動態
5	受動文の現在完了形
6	文化コーナー「ドイツの町の特徴」
7	状態受動
8	中間のまとめ
9	発音とリズム
10	未来形
11	接続法第２式
12	文化コーナー「ドイツの祝日について」
13	接続法第１式
14	文化コーナー「ドイツの名所について」
15	復習とまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

独語Ⅲを修了した履修者を対象とする。

定期試験は実施しない。

■成績評価の方法

□方法　平常点「積極的な参加」(30%)、宿題・小テスト(70%)で評価する。

□基準　到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　「ドイツ語ネクスト・ステージ」(三修社　2,376 円)　**□参考書・辞書**　持参

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17127 (17125)	独語特演Ａ （独語Ⅴ）	２単位 前期	1～4	講義	吉井　巧一（非）

■テーマ　ドイツ語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

ドイツの社会・歴史・政治などについて、ライプツィヒ大学日本語学科学生と、スカイプを利用し、意見交換する。上級クラスのドイツ語運用能力とドイツ文化に関する知識を身につける。

■到達目標

ドイツ語で「話す」・「書く」力を身につける。特に、自分の意見を明確に表現できる能力を獲得する。同年代のドイツ人学生相手にドイツ語を話し・書くことで、ドイツ語・ドイツ文化に対する関心を持つ。

■授業計画・方法

1	オリエンテーション
2	意見交換の「テーマ」設定
3	第１回発表の準備
4	第１回発表
5	第１回発表の「要約」作成
6	第２回発表の準備
7	第２回発表
8	第２回発表の「要約」作成
9	第３回発表の準備
10	第３回発表
11	第３回発表の「要約」作成
12	第４回発表の準備
13	第４回発表
14	第４回発表の「要約」作成
15	復習とまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

ドイツ語基礎クラスを修了している履修者を対象とする。

定期試験は実施しない。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点・積極的な授業参加(70%)、レポート（30%)で評価する。

□基準　到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　配布資料・コピーなど。　　**□参考文献（作品）**　辞書持参。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17128 (17126)	独語特演Ｂ (独語Ⅵ)	２単位 後期	1～4	講義	吉井　巧一(非)

■テーマ　　ドイツ語コミュニケーションのスキル向上

■授業概要

ドイツの社会・歴史・政治などについて、ライプツィヒ大学日本語学科学生と、スカイプを利用し、意見交換する。上級クラスのドイツ語運用能力とドイツ文化に関する知識を身につける。

■到達目標

ドイツ語で「話す」・「書く」力を身につける。特に、自分の意見を明確に表現できる能力を獲得する。同年代のドイツ人学生相手にドイツ語を話し・書くことで、ドイツ語・ドイツ文化に対する関心を持つ。

■授業計画・方法

1	オリエンテーション
2	意見交換の「テーマ」設定
3	第１回発表の準備
4	第１回発表
5	第１回発表の「要約」作成
6	第２回発表の準備
7	第２回発表
8	第２回発表の「要約」作成
9	第３回発表の準備
10	第３回発表
11	第３回発表の「要約」作成
12	第４回発表の準備
13	第４回発表
14	第４回発表の「要約」作成
15	復習とまとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

ドイツ語中級以上の履修者を対象とする。

定期試験は実施しない。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点・積極的な授業参加(70%)、レポート(30%)で評価する。

□基準　到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　配布資料等。　　**□参考文献（作品）**　辞書持参。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17131	仏語Ⅰ	２単位 前期	1～4	演習	大湾 宗定（非） フランク・デルバール（非）

■テーマ

初級フランス語会話とそれを支える文法の習得。

■授業の概要

初めてフランス語を学ぶ学生のための入門クラス。自然で実用的な（たとえば旅行で行ったときにも使えるような）日常会話を皆で練習しながら習得し、又それを支える文法事項を学んでいく。会話のトピックに対応しながらフランス人の日常生活、文化、歴史、地理などを映像や動画等も使いながら紹介していく。シャンソンや映画も教材として扱う。フランスの現代にも接していく。

日本人講師（文法）とフランス人講師（会話・文化）とのペア・ティーチング・クラス。

■到達目標

・フランス語で平易な日常的なコミュニケーションが円滑に行えるようにする。
・それを支える文法事項を習得する。
・フランスの社会、生活、文化について考察する。

■授業計画・方法

１．オリエンテーション・フランス語で自己紹介（担当：デルバール）
２．アルファベ・数詞１～10、（担当：大湾）
３．Leçon 1「出会いの挨拶」フランスってどんな国？国土と地方(担当：デルバール)
４．Leçon 1「出会いの挨拶」綴り字と発音（担当：大湾）
５．Leçon 1「別れの挨拶」フランス人（マナー・会話…）（担当：デルバール）
６．Leçon 1「別れの挨拶」綴り字と発音(担当：大湾)
７．Leçon 2「これは何ですか？」フランスの家族(担当：デルバール)
８．Leçon 2「これは何ですか？」不定冠詞 名詞の性と数(担当：大湾)
９．Leçon 2「あなたのペンですか？」（担当：デルバール）
10．Leçon 2 疑問文、 所有形容詞（担当：大湾）
11．Leçon 3「私は日本人です。」（国籍・職業）（担当：デルバール）
12．Leçon 3 名前・国籍・職業 être 動詞について（担当：大湾）
13．Leçon 3 フランス人の会話のスタイル(担当：デルバール)
14．Leçon 3 être 動詞の否定文・疑問文（担当：大湾）
15．Leçon１から Leçon３までの復習、会話練習（担当：デルバール）
16．Leçon 4「どこに住んでいるの？」〈導入〉（担当：大湾）
17．Leçon 4 社会における女性・男性(担当：デルバール)
18．Leçon 4 -er 型規則動詞、定冠詞（担当：大湾）
19．Leçon 5「何才ですか？」（担当：デルバール）
20．Leçon 5 avoir 動詞・ 数詞 11～100・形容詞(担当：大湾)
21．Leçon 5 パリの美術館(担当：デルバール)
22．Leçon 5〈応用練習〉会話発表③（担当：大湾）
23．Leçon 6 良い天気だね！〈導入〉（担当：デルバール）
24．Leçon 6 好きなことについて話す。（担当：大湾）
25．Leçon 6 ヴァカンス（有給休暇）（担当：デルバール）
26．Leçon 6 ~に行く aller 動詞 （担当：大湾）
27．Leçon 7 どこから来たの？〈導入〉（担当：デルバール）
28．Leçon 7 移動手段を言う。（担当：大湾）
29．Leçon 7 仕事（労働時間）（担当：デルバール）

30. **定期試験** Leçon４～ Leçon７、全体のまとめ（担当：大湾）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・語学学習は通常の教師からの講義という形態もあるが、会話のペアー練習やロールプレイなどのグループ学習を取り入れ、学生同士で学びあう授業をめざす。
・各 leçon を 4 回の授業でこなすべく進めて行くので、当然のことながら各自の授業への準備が必要です。ＣＤを良く聞き、単語の意味を調べ、文法事項を見ておくこと、練習問題も目を通しておくこと。
・各 leçon が終わったら巻末の提出問題は宿題として提出する。
・フランスの文化・生活紹介は毎回ノートを取り感想、意見を述べ合う。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間・期末テスト 50% 会話小テスト・ロールプレイ 30% フランスの生活、文化社会への考察ノート、授業への積極的参加や発言 20%で総合的に評価する。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
基礎フランス的フランス語コミュニケーションとそれを支える文法の習得。フランスの生活、文化への考察。

■教科書・参考文献（資料）等

□教 科 書:「トゥ・ファシル！」大湾宗定・阪口勝弘著 白水社
□参考文献:「ほんとうのフランスがわかる本」原書房、
「ラ・ソスィエテ・フランセーズ」アルマ出版
□辞　　書:『パスポート初級仏和辞典』白水社
『プチロワイヤル仏和辞典』(0bunsha) 電子辞書あり
or『クラウン仏和辞典』三省堂 電子辞書あり

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17132	仏語Ⅱ	２単位 後期	1~4	演習	大湾 宗定（非） フランク・デルバール（非）

■テーマ

初級フランス語の会話とそれを支える文法の取得(仏語Ⅰの継続)。

■授業の概要

前期の継続、初級のフランス語クラス。自然で実用的な（たとえば旅行で行ったときにも使えるような）日常会話を皆で練習しながら習得し、又それを支える文法事項を学んでいく。会話のトピックに対応しながらフランス人の日常生活、文化、歴史、地理などを映像や動画等も使いながら紹介していく。シャンソンや映画も教材として扱う。フランスの現代にも接していく。

日本人講師(文法)とフランス人講師(会話・文化)とのペア・ティーチング・クラス。

■到達目標

・フランス語で平易な日常的なコミュニケーションが円滑に行えるようにする。
・それを支える文法事項を習得する。
・フランスの社会、生活、文化についての理解を深める。

■授業計画・方法

１．前期学んだ表現を使った会話練習（担当：デルバール）
２．前期学んだ文法項目の復習　(担当：大湾)
３．Leçon 8 「何になさいますか？」〈導入〉 (担当：デルバール)
４．Leçon 8 部分冠詞について（担当：大湾)
５．Leçon 8 フランスの食生活について(担当：デルバール)
６．Leçon 8 中性代名詞EN（担当：大湾)
７．Leçon 9「このワンピースを試着したいのですが。」〈導入〉(担当：デルバール)
８．Leçon 9 人称代名詞・比較級・最上級（担当：大湾)
９．Leçon 9 ファッション　(担当：デルバール)
10．Leçon 9 人称代名詞・比較級・最上級（2）(担当：大湾)
11．Leçon 10 今何時ですか？〈導入〉 (担当：デルバール)
12．Leçon 10 時間の言い回し（担当：大湾)
13．Leçon 10 フランス人の一日(担当：デルバール)
14．Leçon 10 代名動詞(担当：大湾)
15．Leçon 11 「昨日は何をしたの？」〈導入〉 (担当：デルバール)
16．Leçon 11 複合過去（担当：大湾)
17．Leçon 11 近接過去（担当：デルバール)
18．Leçon ８からLeçon１１までの復習（担当：大湾)
19．Leçon 12 「雨が降っていました。」〈導入〉 (担当：デルバール)
20．：Leçon 12 半過去（担当：大湾)
21．Leçon 12 フランスのシャンソン(担当：デルバール)
22．Leçon 12 半過去を使った練習(担当：大湾)
23．Leçon13 「来週トゥールーズに行くでしょう。」〈導入〉 (担当：デルバール)
24．Leçon13 未来形（担当：大湾)
25．Leçon13 未来形を使った練習（担当：デルバール)
26．Leçon13 近接未来（担当：大湾)
27．Leçon13 近接未来を使った練習（担当：デルバール)
28．Leçon 12 からLeçon13 までの復習（担当：大湾)
29．フランスのシャンソン（２）（担当：デルバール)

30. 定期試験。全体のまとめ、復習（担当：大湾）

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・語学学習は通常の教師からの講義という形態もあるが、会話のペアー練習やロールプレイなどのグループ学習を取り入れ、学生同士で学びあう授業をめざす。
・各 leçon を 4 回の授業でこなすべく、進めて行くので、当然のことながら、各自の授業への準備が必要です。ＣＤを良く聞き、単語の意味を調べ、文法事項を見ておくこと、練習問題も目を通しておくこと。
・各 leçon が終わったら巻末の提出問題は宿題として提出する。
・フランスの文化・生活紹介は毎回ノートを取り感想、意見を述べ合う。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間・期末テスト 50% 会話小テスト・ロールプレイ 30% フランスの生活、文化社会への考察ノート、授業への積極的参加や発言 20%で総合的に評価する。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
基礎フランス的フランス語コミュニケーションとそれを支える文法の習得。フランスの生活、文化への考察。

■教科書・参考文献（資料）等

□教 科 書:「トゥ・ファシル！」大湾宗定・阪口勝弘著 白水社
□参考文献:「ほんとうのフランスがわかる本」原書房、
「ラ・ソスィエテ・フランセーズ」アルマ出版
□辞　　書:『パスポート初級仏和辞典』白水社
『プチロワイヤル仏和辞典』(0bunsha) 電子辞書あり
or『クラウン仏和辞典』三省堂 電子辞書あり

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17133	仏語Ⅲ	２単位 前期	1～4	講義	大湾 宗定（非）

■テーマ

中級フランス語の総合的な語学能力「読む」「書く」「聴く」「話す」の習得。

■授業の概要

ビデオ教材『新・彼女は食いしん坊！２』を使い中級フランス語を学ぶ。Claire のフランスの地方料理をめぐる旅の報告メールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」「書く」「聴く」「話す」といった総合的な語学能力の習得をめざす。またビデオでは各地の地方料理とそれをはぐくんだ風土や歴史を通してフランスの魅力を発見していきます。さらにインタビューや料理の作り方でフランス人の自然な会話に慣れ親しみましょう。

■到達目標

・中級フランス語の文法、読解力を身につける。
・初級より一歩踏み込んだコミュニケーション能力を養成することを主目的とする。

■授業計画・方法

１．Unité 0 Claire part en voyage（ introduction ） 綴り字と読みの復習
２．Unité 1 L’Alsace 1 ストラスブールとキッシュローレヌ
３．複合過去、代名動詞の複合過去、
４．Unité 2 L’Alsace 2 アルザス地方２
５．半過去、大過去、複合過去と大過去
６．Civilisation キッシュローレヌのレシピ
７．Unité 3 La Bourgogne 1 ディジョンとエスカルゴ
８．関係代名詞、命令形と補語人称代名詞
９．中間テスト
10. Unité 4 La Bourgogne 2 ブルゴーニュワイン
11. 現在分詞、ジェロンディフ、疑問代名詞
12. Civilisation 若鳥のワイン煮のレシピ
13. Unité 5 La région Rhône-Alpes シャモニーとフォンデュ
14. 受動態、最上級、副詞
15. **定期試験および解説**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・各Unité を３回の授業でこなすべく、進めて行くので、当然のことながら、各自の授業への準備が重要です。
ＣＤを良く聞き、意味を調べ、文法事項をさらってください。練習問題はやっておくこと。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間・期末テスト60%、授業への積極的参加40%

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
中級フランス語の文法、読解、コミュニケーション能力の取得

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：『新・彼女は食いしん坊！２』朝日出版社

□辞　書：『プチロワイヤル仏和辞典』(Obunsha) 電子辞書あり
or『クラウン仏和辞典』三省堂 電子辞書あり

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17134	仏語Ⅳ	２単位 後期	1～4	講義	大湾　宗定（非）

■テーマ

中級フランス語の総合的な語学能力「読む」「書く」「聴く」「話す」の習得（仏語 III の継続）。

■授業の概要

前期の継続 ビデオ教材『新・彼女は食いしん坊！２』を使い中級フランス語を学ぶ。Claire のフランスの地方料理をめぐる旅の報告メールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」「書く」「聴く」「話す」といった総合的な語学能力の習得をめざす。またビデオでは各地の地方料理とそれをはぐくんだ風土や歴史を通してフランスの魅力を発見していきます。さらにインタビューや料理の作り方でフランス人の自然な会話に慣れ親しみましょう。

■到達目標

・中級フランス語の文法、読解力を身につける。
・初級より一歩踏み込んだコミュニケーション能力を養成することを主目的とする。

■授業計画・方法

１．Unité 6 La région Rhône-Alpes 2 シャモニーとチーズ
２．強調構文、中性代名詞 en, y, le
３．Civilisation ドフィーヌ風グラタンのレシピ
４．Unité 7 La Provence マルセイユとブイヤーベース
５．条件法現在、条件法過去
６．Unité 8 La Provence 2 ラタトゥイユ
７．接続法現在、接続法過去
８．Civilisation ラタトゥイユのレシピ
９．中間テスト
10. Unité 9 La Bretagne レーヌとクレープ
11. 間接話法、時制の一致
12. Unité 10 La Bretagne 2 サンマロと魚介類
13. 前置詞&接続詞のまとめ
14. Civilisation ガトー・ブルトンのレシピ
15. 定期試験および解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・各 Unité を３回の授業でこなすべく進めて行くので、当然のことながら、各自の授業への準備が重要です。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間・期末テスト 60%、授業への積極的参加 40%

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
中級フランス語の文法、読解、コミュニケーション能力の取得

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：『新・彼女は食いしん坊！２』朝日出版社

□辞　書：『プチロワイヤル仏和辞典』(Obunsha) 電子辞書あり
or『クラウン仏和辞典』三省堂 電子辞書あり

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17137 (17135)	仏語特演Ａ （仏語Ⅴ）	２単位 前期	1～4	講義	大湾 宗定（非）

■テーマ

中級フランス語をマスターし、フランスの文学作品、歌曲、オペラを鑑賞する。

■授業の概要

フランス語中級の講読、演習。各受講生の専門分野の必要に対応すべく、フランス語の資料の読み込みに取り組み、フランス語の正確な読解・朗読・朗唱力を養成する。フランス歌曲・オペラ、絵画芸術論、又フランスの芸術を紐解くためにも必要な、詩、小説や戯曲などの文学作品も読む。詳しいプログラムは登録した学生との面談で決める。

■到達目標

・中級フランス語の文法、読解・朗読・朗唱力を身につける。

・フランス歌曲やオペラを歌う者にとっては直接必要となる内容の理解や、朗読、朗唱の技術、器楽奏者にとってもフランス音楽に流れる詩情の理解やその表出のために必要な詩や文学の理解を目標とする。また美術の学生にもフランス文芸の理解の一助となることを目標とする。

■授業計画・方法

（授業計画、取り上げる作品は、受講者の専門分野の資料等、協議の上で決定。下記の授業計画は一例である）

１．オリエンテーション　詩と音楽
２．韻文、音節、脚韻、諧調
３．ロマン派の詩　Gautier - Berlioze：“ Villanelle ”
４．シャンソン「Le temps des cerises」
５．Hugo - Hann “ Si mes vers avaient des ailes “
６．Bussine - Fauré “ Après un rêve ”
７．Verlaine - Fauré / Debussy《 Claire de lune 》
８．Les feuilles mortes (J.Prevert)
９．Le Petit Prince (A. de Saint-Exupery)「星の王子さま」の抜粋
10．Le Petit Prince 「星の王子さま」の抜粋
11. Bizet《 Carmen 》から
12. Bizet《 Carmen 》から
13. Lahor-Duparc “Chanson triste ”
14. Lahor-Duparc “Chanson triste ”
15. 定期試験及び解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・授業の内容は、受講生のレベルやニーズに合わせて変更することがある。
・仏語Ⅲ．Ⅳ履修済みが望ましいが、担当教師との面談で外国語科目段階的履修免除、または仏語Ⅲ.Ⅳ同時履修も可。各自の授業への積極的な参加を求む（勉強したい作品を提示）。
・授業の準備、テキストを前もって自分なりに読みといておく。

■成績評価の方法・基準

□方法　期末テスト40%、レポート30%、授業への積極的参加30%

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
フランス語の正確な読解・朗読・朗唱力、文化、芸術への考察力

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書　『フランスの詩と歌の愉しみ』近代詩と音楽　大森晋輔　東京芸術大学出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17138 (17136)	仏語特演B （仏語ＶＩ）	２単位 後期	1～4	講義	大 湾　宗 定 （非）

■テーマ

中級フランス語を磨き、フランスの文学作品や歌曲、オペラを鑑賞する。

■授業の概要

フランス語特演Aの継続。フランス語中級の講読、演習。各受講生の専門分野の必要に対応すべく、フランス語の資料の読み込みに取り組み、フランス語の正確な読解・朗読・朗唱力を養成する。フランス歌曲・オペラ、絵画芸術論、又フランスの芸術を紐解くためにも必要な、詩、小説や戯曲などの文学作品も読む。詳しいプログラムは登録した学生との面談で決める。

■到達目標

・中級フランス語の文法、読解・朗読・朗唱力を身につける。

・フランス歌曲やオペラを歌う者にとっては直接必要となる内容の理解や、朗読、朗唱の技術、器楽奏者にとってもフランス音楽に流れる詩情の理解やその表出のために必要な詩や文学の理解を目標とする。また美術の学生にもフランス文芸の理解の一助となることを目標とする。

■授業計画・方法

（授業計画、取り上げる作品は、受講者の専門分野や希望を考慮し、協議の上、変更をすることもある）

１．Prudhomme-Fauré “ Au bord de l’eau”
２．De Lamartine-Gounod “ Le soir ”
３．Gounod《 Faust 》から
４．Gounod《 Faust 》から
５．Gallet-Massenet “ Élégie ”
６．Massenet《 Werther》から
７．Massenet《 Manon 》から
８．Baudelaire-Debussy “ Harmonie du soir ”
９． Debussy 《 Pelléas et Mélisande 》から
１０．Debussy 《 Pelléas et Mélisande 》から
１１．Debussy 《 Pelléas et Mélisande 》から
１２．Ch.Baudlaire- Duparc “ Invitation au voyage “
１３．Apollinaire-Poulanc “ Monparnasse ”
１４．Aragon-Poulanc “ C ”
１５．定期試験及び解説・まとめ

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・授業の内容は、受講生のレベルやニーズに合わせて変更することがある。
・仏語Ⅲ．Ⅳ履修済みが望ましいが、担当教師との面談で外国語科目段階的履修免除、または仏語Ⅲ.Ⅳ同時履修も可。各自の授業への積極的な参加を求む（勉強したい作品を提示）。
・授業の準備、テキストを前もって自分なりに読みといておく。

■成績評価の方法・基準

□方法　期末テスト40%、レポート30%、授業への積極的参加30%

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
フランス語の正確な読解・朗読・朗唱力、文化、芸術への考察力

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書　『フランスの詩と歌の愉しみ』近代詩と音楽　大森晋輔　東京芸術大学出版会

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17141	伊語Ⅰ	２単位 前期	1~4	演習	玉城　千春（非） フレデリック・ロバト(非)

■テーマ　初級レベルのイタリア語を習得する

■授業の概要

イタリア語の基本的な文法を一通り学びながら、イタリアの歴史・文化についての理解を深めることを目標とする。コミュニケーション能力を養うため、イタリアの歌やビデオなどの視聴覚教材を使用する。

■到達目標

・不規則動詞の活用までを習得する。
・初歩的な会話ができるようにする。

■授業計画・方法

第1回　Lezione 1：ガイダンスおよび文字と発音についての解説　（担当：玉城）
第2回　文字と発音の練習　（担当：ロバト）
第3回　Extra 1：あいさつなどの表現についての解説　（担当：玉城）
第4回　あいさつなどの表現を使った練習　（担当：ロバト）
第5回　Lezione 2：名詞についての解説　（担当：玉城）
第6回　名詞を使った練習　（担当：ロバト）
第7回　Extra 2：数詞・その１（１から３１まで）　（担当：玉城）
第8回　１から３１までの数詞を使った練習　（担当：ロバト）
第9回　Lezione 3：形容詞についての解説　（担当：玉城）
第10回　形容詞を使った練習　（担当：ロバト）
第11回　Lezione 4：主語、動詞essere、「～がある」の文についての解説　（担当：玉城）
第12回　主語、動詞essere、「～がある」の文を使った練習　（担当：ロバト）
第13回　Lezione 5：定冠詞、指示語、所有形容詞についての解説　（担当：玉城）
第14回　定冠詞、指示語、所有形容詞を使った練習　（担当：ロバト）
第15回　**中間試験および文法のまとめ（名詞・形容詞・essere動詞を中心に）　（担当：ロバト）**
第16回　Extra 3：前置詞についての解説　（担当：玉城）
第17回　前置詞を使った練習　（担当：ロバト）
第18回　Extra 4：数詞・その２（３０～、大きな数についての解説）　（担当：玉城）
第19回　数詞・その２　３０～、大きな数を使った練習　（担当：ロバト）
第20回　Lezione 6：規則動詞・その１－基礎（活用を中心に）についての解説　（担当：玉城）
第21回　規則動詞・その１－基礎（活用を中心に）練習　（担当：ロバト）
第22回　Lezione 7：規則動詞・その２－応用(疑問文や否定文)についての解説　（担当：玉城）
第23回　規則動詞・その２－応用(疑問文や否定文）練習　（担当：ロバト）
第24回　Lezione 8：不規則動詞・その１（avereなど)についての解説　（担当：玉城）
第25回　不規則動詞・その１（avereなど）を使った練習　（担当：ロバト）
第26回　Lezione 9：不規則動詞・その２（venireなど）についての解説　（担当：玉城）
第27回　不規則動詞・その２（venireなど）を使った練習（担当：ロバト）
第28回　Extra 5：時を表す単語(曜日、月、季節)についての解説　（担当：玉城）
第29回　時を表す単語(曜日、月、季節)を使った練習　（担当：ロバト）
第30回　**期末試験および文法のまとめ（規則動詞と不規則動詞を中心に）（担当：玉城）**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・後期に開講される伊語Ⅱと合わせ１年間でイタリア語の初級文法を学ぶので<u>１年間を通しての受講</u>が原則である。

・この授業は二人の講師が交互に行なう。

・単語小テストを月に１回程度実施。前の回にて範囲を指示するので、暗記する必要がある。

・各回の内容において予習、復習は必須だがさらなる自主学習の為、提出課題を指示する場合あり。

■成績評価の方法

□方法　通常の授業態度・積極性（30%）、課題提出・小テスト（30%）、中間・期末試験（40%）

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：『イタリア語文法　徹底マスター』　駿河台出版社　ＩＳＢＮ 978-4-411-01744-4　￥2500＋税

□辞　書：伊和辞典（白水社、小学館、その他いずれでも構いません）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17142	伊語Ⅱ	2単位 後期	1~4	演習	玉城　千春（非） フレデリック・ロバト（非）

■テーマ　初級レベルのイタリア語を習得する

■授業の概要

イタリア語Ⅰに続いてイタリア語の基本的な文法を一通り学びながら、イタリアの歴史・文化についての理解を深めることを目標とする。コミュニケーション能力を養うため、イタリアの歌やビデオなどの視聴覚教材を使用する。

■到達目標

・動詞の近過去形までを習得する。
・簡単なコミュニケーションができるようにする。

■授業計画・方法

第 1 回　Lezione 10: 疑問詞についての解説（担当：玉城）
第 2 回　疑問詞を使った練習（担当：ロバト）
第 3 回　Extra 6: 感嘆文についての解説（担当：玉城）
第 4 回　感嘆文を使った練習（担当：ロバト）
第 5 回　Lezione 11: 補語人称代名詞についての解説（担当：玉城）
第 6 回　補語人称代名詞を使った練習（担当：ロバト）
第 7 回　Lezione 12: 特殊な動詞piacere（「～が好きだ」という表現）についての解説（担当：玉城）
第 8 回　特殊な動詞piacere（「～が好きだ」という表現）を使った練習　（担当：ロバト）
第 9 回　Lezione 13: 補助動詞についての解説（担当：玉城）
第 10 回　補助動詞を使った練習（担当：ロバト）
第 11 回　Extra 7: 数詞・その3（序数と分数）についての解説（担当：玉城）
第 12 回　数詞・その3（序数と分数）を使った練習（担当：ロバト）
第 13 回　Lezione 14: 接続詞を使った文／時間の表現についての解説（担当：玉城）
第 14 回　接続詞を使った文／時間の表現を使った練習（担当：ロバト）
第 15 回　**中間試験と文法のまとめ（疑問視、補助動詞を中心に）（担当:ロバト）**
第 16 回　Lezione 15: 再帰動詞についての解説（担当：玉城）
第 17 回　再帰動詞を使った練習（担当：ロバト）
第 18 回　**動詞のまとめ1（基礎活用から再帰動詞まで）（担当：玉城）**
第 19 回　**動詞のまとめ1（基礎活用から再帰動詞までの練習）（担当：ロバト）**
第 20 回　Lezione 16: 命令法についての解説（担当：玉城）
第 21 回　命令法を使った練習（担当：ロバト）
第 22 回　Lezione 17: 近過去・その1 - avereを使うものについての解説（担当：玉城）
第 23 回　近過去・その1 - avereを使うタイプの練習（担当：ロバト）
第 24 回　Lezione 18: 近過去・その2 - essereを使うものについての解説（担当：玉城）
第 25 回　近過去・その2 - essereを使うタイプの練習（担当：ロバト）
第 26 回　Lezione 18: 近過去・再帰動詞、補助動詞、Piacereなどの場合についての解説（担当：玉城）
第 27 回　近過去・再帰動詞、補助動詞、Piacereなどの場合を使った練習（担当：ロバト）
第 28 回　**動詞のまとめ 2（近過去の用法について）（担当：玉城）**
第 29 回　**動詞のまとめ 2（近過去を使った練習）（担当：ロバト）**
第 30 回　**期末試験と文法のまとめ（再帰動詞、補助動詞、近過去を中心に）（担当：玉城）**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・原則として<u>イタリア語Ⅰを履修した者</u>が受講できる。

・この授業は二人の講師が交互に行なう。

・単語小テストを月に１回程度実施。前の回にて範囲を指示するので、暗記する必要がある。

・各回の内容において予習、復習は必須だがさらなる自主学習の為、提出課題を指示する場合あり。

■成績評価の方法

□方法　通常の授業態度・積極性（30%）、課題提出・小テスト（30%）、中間・期末試験（40%）

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：『イタリア語文法　徹底マスター』　駿河台出版社　ＩＳＢＮ 978-4-411-01744-4　￥2500＋税

□辞　書：伊和辞典（白水社、小学館、その他いずれでも構いません）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17143	伊語Ⅲ	２単位 前期	1～4	講義	玉城　千春（非）

■テーマ　中級レベルのイタリア語を習得する

■授業の概要

イタリア語 I, II で習得した文法を基盤とし、中級イタリア語の文法事項を学び、より進んだ読解と会話の練習を行う。また学期末にイタリア語検定の模擬試験を行う。できる限り聞き取りの練習も行う。

■到達目標

・新しく学んだ文法事項を使ってより複雑な文を理解する
・より高度なコミュニケーションができるようにする。

■授業計画・方法

（1）　ガイダンス/イタリア語初級の復習
（2）　Lezione 19　半過去、大過去の解説
（3）　Lezione 19　半過去、大過去の練習
（4）　Lezione 20　未来形の解説と練習
（5）　Lezione 20　Extra　8　先立未来の解説と練習
（6）　Lezione 21　比較級と最上級の解説
（7）　Lezione 21　比較級と最上級の練習
（8）　Lezione 22　ジェルンディオの解説
（9）　Lezione 22　ジェルンディオの練習
(10)　Lezione 23　関係代名詞の解説
(11)　Lezione 23　関係代名詞の練習
(12)　Lezione 24　受動態の解説
(13)　Lezione 24　受動態の練習
(14)　イタリア語検定５級模擬試験と解説
(15)　**期末試験（文法、聞き取り）とまとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・原則として、伊語Ⅰ、伊語Ⅱを履修済みの学生が受講できる。
・主に長文読解力や単語力を身につける為の提出課題を月に２回程実施、その都度指示する。
・単語小テストを月に１回程度実施。前の週に指示する範囲を暗記する必要がある。

■成績評価の方法

□方法　通常の授業態度・積極性（30%）、課題提出・小テスト（35%）、期末試験（35%）
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書：『イタリア語文法　徹底マスター』　駿河台出版社　ＩＳＢＮ 978-4-411-01744-4　￥2500＋税
□辞　書：「伊和辞典」及び「和伊辞典」（白水社、小学館、その他いずれでも構いません）

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17144	伊語Ⅳ	２単位 後期	1～4	講義	玉城　千春（非）

■テーマ　中級レベルのイタリア語を習得する

■授業の概要

中級イタリア語の文法事項を続けて学び、さらに基本的文法事項のうち実際のコミュニケーションの中で使用頻度の高い重要なものを選び、より進んだ読解と会話の練習を行う。また学期末にイタリア語検定の模擬試験を行ない、自己の実力の客観的判断材料とする。できる限り聞き取りの練習も行う。

■到達目標

・新しく学んだ文法事項を使って、より複雑な文を理解する。
・より高度なコミュニケーションができるようにする。

■授業計画・方法

（1）　Lezione 25　si の用法（受動態と非人称）解説と練習
（2）　Lezione 25　代名小詞 ci と ne　解説と練習
（3）　Extra　9　非人称動詞と非人称構文　解説と練習
（4）　Lezione 26　接続法（現在と過去）の解説
（5）　Lezione 26　接続法（半過去と大過去）の解説
（6）　Lezione 26　接続法の練習と動詞のまとめ 3
（7）　Lezione 27　条件法の解説
（8）　Lezione 27　条件法の練習と動詞のまとめ 4
（9）　Lezione 28　仮定文の解説
(10)　Lezione 28　仮定文の練習
(11)　Extra 10/11 大過去と先立過去の解説
(12)　Extra 10/11 大過去と先立過去の練習
(13)　イタリア語検定 5 級模擬試験および解説
(14)　イタリア語検定 4 級模擬試験および解説
(15)　**期末試験（文法、聞き取り）およびまとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・原則として、伊語Ⅰ、伊語Ⅱ、伊語Ⅲを履修済みの学生が受講できる。
・主に長文読解力や単語力を身につける為の提出課題を月に 2 回程実施、その都度指示する。
・単語小テストを月に 1 回程度実施。前の週に指示する範囲を暗記する必要がある。

■成績評価の方法

□方法　通常の授業態度・積極性（30%）、課題提出・小テスト（35%）、期末試験（35%）
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

□教科書：『イタリア語文法　徹底マスター』　駿河台出版社　ＩＳＢＮ 978-4-411-01744-4　￥2500＋税
□辞　書：「伊和辞典」及び「和伊辞典」（白水社、小学館、その他いずれでも構いません）

科目番号	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17147 (17145)	伊語特演 A （伊語 V）	２単位 前期	1～4	講義	ピエトロ・スコッツァリ （非）

■テーマ　中級から上級レベルのイタリア語コミュニケーション能力の習得

■授業概要

イタリア語のコミュニケーション能力を高めたい学生のためのクラス。イタリア語を母国語とする講師による授業。実用的な会話表現を習得しながら文法事項を学び、多くの練習によってイタリア語による表現力を高める。

■学習目標

基本的な文法事項の理解を深め、イタリア人講師とのコミュニケーションにより、正しいイタリア語の発音を身につけ、実用的な会話表現を習得する。

■授業計画・方法

新聞・雑誌記事、旅行ガイドブック、歌詞など様々なテキストを使い、イタリアの歴史・文化・現代社会の多彩な側面について学びながら、実践的なイタリア語によるコミュニケーション力を高める。
必要に応じて文法の復習や確認をし、着実にイタリアという国についての理解と会話力を高める。

第１週　イントロダクション
第２週　復習（自己紹介、挨拶表現）
第３週　復習（基本文法）
第４週　イタリアの地理
第５週　食べましょう！
第６週　イタリア／日本
第７週　音楽、今昔
第８週　仕事、ああ大変
第 9 週　芸術全領域
第 10 週　皆で映画館に行こう
第 11 週　時事問題
第 12 週　テレビと新聞
第 13 週　さあ、旅行だ
第 14 週　都会で生きる術
第 15 週　進化する文法、まとめ、期末試験

※各ユニットでプリントを配布する。授業計画は、進行状況や習熟度により多少変動する場合がある。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

授業は予習していることを前提に進めるので、わからない単語や表現があれば事前に調べておく必要がある。
また、暗記事項が多いので、復習も不可欠である。
辞書を必ず持参すること。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間・期末試験(40%)、授業への積極性･貢献度(30%)、宿題(30%)
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

教科書は使用しない。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17148	伊語特演 B （伊語Ⅳ）	２単位 後期	1～4	講義	後日掲示

■テーマ

■授業概要

■学習目標

■授業計画・方法

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

■成績評価の方法・基準
□方法
□基準

■教科書・参考文献等

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17151	中国語Ⅰ Ａクラス	各２単位 前期	1～4	演習	運天亜紀子（非）

■テーマ

この授業は中華人民共和国の標準語である「普通話」の初心者を対象に、中国語の発音、会話、聞き取り、文法、作文等の学習を総合的に行い、基礎的なコミュニケーション能力を養います。

■授業概要

中国語学習者にとって最も難関とされるのは発音です。従って、この授業では特に発音訓練とピンイン（中国語の発音記号）をマスターすることにポイントを置き、教科書に沿って日常会話に欠かせない基本的な文型、文法を学び、簡単な日常会話を使いこなせるよう、会話、作文の練習を行います。

■学習目標

まず、ピンイン（中国語の発音記号）を理解して正しく発音し、聞き取ることができるようにしましょう。また、基本的な文法を理解し、教科書の本文に出てくるような単語、日常会話の決まり文句や作文（短文）を使いこなせるようにしましょう（中国語検定準４級程度）。そして、辞書をよく引き、インターネットを活用するなど、自分でも学べる環境を整えましょう。

■授業計画・方法

第１回　：ガイダンスとアンケート　－中国語について
第２回　：第１課　＜出会いの表現＞　－　こんにちは　/　発音（1）・中国語の音節・声調
第３回　：第１課　出会いの表現を使った会話練習
第４回　：第２課　＜別れの表現＞　－　また明日　/　発音（2）・単母音・復母音
第５回　：第２課　別れの表現を使った会話練習
第６回　：第３課　＜感謝の表現＞　－　ありがとう　/　子音（1）・無気音と有気音
第７回　：第３課　感謝の表現を使った会話練習
第８回　：第４課　＜挨拶表現＞　－　お久しぶり　/　子音（2）・そり舌音・鼻音
第９回　：第４課　挨拶表現を使った会話練習
第１０回：第５課　＜出迎える＞　－　名前の言い方　/　名前のたずね方　/　人称代名詞
第１１回：第５課　出迎え表現を使った会話練習
第１２回：第６課　＜歓迎パーティー＞　－　動詞〝是〞/　助詞〝的〞/ 肯定文
第１３回：第６課　＜歓迎パーティー＞　－　動詞〝是〞/　助詞〝的〞/ 否定文・疑問文
第１４回：第７課　＜タクシーに乗る＞　－　基本語順　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ
第１５回：第７課　＜タクシーに乗る＞　－　二つ以上の動詞からなる文
第１６回：第１課～第７課までのまとめと復習
第１７回：**中間テスト**
第１８回：第８課　＜宿泊する＞　－　希望や願望を表す助動詞〝想〞/　指示代名詞
第１９回：第８課　＜宿泊する＞　－「～を持っている」「～に…がある/いる」を表す“有”
第２０回：第９課　＜道をたずねる＞　－　動詞〝在〞/　前置詞〝从〞〝往〞
第２１回：第９課　＜道をたずねる＞　－　場所を表す指示代名詞
第２２回：第10課　＜ショッピングをする＞　－　数のいいかた
第２３回：第10課　＜ショッピングをする＞　－　形容詞が述語になる文
第２４回：第11課　＜おしゃべりをする＞　－　年月日・曜日のいいかた
第２５回：第11課　＜おしゃべりをする＞　－　年齢のいいかた
第２６回：第12課　＜料理を注文する＞　－　量詞
第２７回：第12課　＜料理を注文する＞　－　動詞の重ね型
第２８回：第13課　＜サッカーのチケットを買う＞　－　時刻のいいかた
第２９回：第13課　＜サッカーのチケットを買う＞　－　新事態の発生や状態の変化を表す文末の〝了〞
第３０回：**期末テスト**

■履修上の留意点　（授業以外の学習方法を含む）

初歩から学ぶ中国語は最初の発音練習が重要です。日頃からテキスト付帯のＣＤを活用し、繰り返し練習しましょう。また、授業中の発音、会話練習の際にはペアレッスンが中心になります。恥ずかしがらず積極的に取り組むようにしましょう。簡体字に慣れ、単語を覚えるためにも、課毎に単語テストを行いますので、新しい課に入る際には単語の予習を欠かさず行いましょう。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間テスト、期末テストの成績（７０％）に、単語テストの成績（１５％）、課題などの提出物（１０％）、発音チェック（５％）を総合的に評価します。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　「しゃべっていいとも中国語トータル版」　陳淑梅、劉光赤　（朝日出版社）ISBN コード：978-4-255-45238-8 c1087

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17151	中国語Ⅰ Bクラス（火曜、金曜・２限）	２単位 前期	1～4	演習	稲福　礼子（非）

■テーマ　この授業は中華人民共和国の標準語である「普通話」の初心者を対象に、中国語の発音、会話、聞き取り、文法、作文等の学習を総合的に行い、基礎的なコミュニケーション能力を養う。

■授業概要

入門（中国の紹介、中国語の発音と声調）から基礎知識（挨拶の表現、数字の読み方、日時）までを分かりやすく紹介し、自己紹介、簡単な挨拶を学習する。

■到達目標

簡単な自己紹介と簡単な挨拶ができるようになること。

■授業計画・方法

基本的に講義中心の授業。必要に応じてビデオ、CD、DVD 等を使用する。

第１回　：オリエンテーション　－　中国について　/　中国語について
第２回　：中国語と日本語の比較
第３回　：第１課　＜出会いの表現＞　－　こんにちは　/　発音（1）・中国語の音節・声調
第４回　：第１課　出会いの表現を使った会話練習
第５回　：第２課　＜別れの表現＞　－　また明日　/　発音（2）・単母音・復母音
第６回　：第２課　別れの表現を使った会話練習
第７回　：第３課　＜感謝の表現＞　－　ありがとう　/　子音（1）・無気音と有気音
第８回　：第３課　感謝の表現を使った会話練習
第９回　：第４課　＜挨拶表現＞　－　お久しぶり　/　子音（2）・そり舌音・鼻音
第１０回：第４課　挨拶表現を使った会話練習
第１１回：第５課　＜出迎える＞　－　名前の言い方　/　名前のたずね方　/　人称代名詞
第１２回：第５課　出迎え表現を使った会話練習
第１３回：第６課　＜歓迎パーティー＞　－　動詞〝是〞/　助詞〝的〞/ 肯定文
第１４回：第６課　＜歓迎パーティー＞　－　動詞〝是〞/　助詞〝的〞/ 否定文・疑問文
第１５回：第７課　＜タクシーに乗る＞　－　基本語順　Ｓ＋Ｖ＋Ｏ
第１６回：第７課　＜タクシーに乗る＞　－　二つ以上の動詞からなる文
第１７回：＜自己紹介（グループ１）＞　－　自分の名前（フルネーム）がいえる　/　相手の名前が聞ける
第１８回：＜自己紹介（グループ２）＞　－　自分の名前（フルネーム）がいえる　/　相手の名前が聞ける
第１９回：第８課　＜宿泊する＞　－　希望や願望を表す助動詞〝想〞/　指示代名詞
第２０回：第８課　＜宿泊する＞　－「～を持っている」「～に…がある/いる」を表す〝有〞
第２１回：第９課　＜道をたずねる＞　－　動詞〝在〞/　前置詞〝从〞〝往〞
第２２回：第９課　＜道をたずねる＞　－　場所を表す指示代名詞
第２３回：第10課　＜ショッピングをする＞　－　数のいいかた
第２４回：第10課　＜ショッピングをする＞　－　形容詞が述語になる文
第２５回：第11課　＜おしゃべりをする＞　－　年月日・曜日のいいかた
第２６回：第11課　＜おしゃべりをする＞　－　年齢のいいかた
第２７回：第12課　＜料理を注文する＞　－　量詞
第２８回：第12課　＜料理を注文する＞　－　動詞の重ね型
第２９回：第13課　＜サッカーのチケットを買う＞　－ 時刻のいいかた、新事態の発生や状態の変化を表す文末の〝了〞
第３０回：**まとめ、期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

中国語は日本人にとって発音が難しいところ（例：反り舌音）があるので時間をかけて発音練習を繰り返す必要がある。授業では教師の後についての復唱以外に、役割に応じた会話練習等、学生同士でのグループ学習を取り入れる。毎回、中国の文化、生活習慣などについての講義も行い、その後意見を述べ合う。

各課の終了後は各自付属の CD をくり返し聞くこと。単語は発音できるようにしておき、文法項目は熟読して、課末の練習問題は予習として授業前にやっておくこと。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点（出席、テキスト持参、授業への積極的な参加）２０％、
参加点（グループ発表、会話テスト）２０％、期末テスト６０％

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
教科書の内容を十分理解しているか、積極的に中国語を用いたコミュニケーションが図られているか。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：「しゃべっていいとも中国語トータル版」　陳淑梅、劉光赤　（朝日出版社）ISBN コード：978-4-255-45238-8 c1087

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17152	中国語Ⅱ Ａクラス（月・木曜２限）	各２単位 後期	1～4	演習	運天亜紀子（非）

■テーマ　この授業では前期「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の発音、会話、聞き取り、文法、作文等の学習を総合的に行い、基礎的なコミュニケーション能力を養います。

■授業概要

「中国語Ⅰ」で学習した内容や「ピンイン」を定着させ、教科書に沿って日常会話に欠かせない基本的な文型、文法を学び、簡単な日常会話をできるだけ辞書に頼らずに使いこなせるよう、会話、作文の練習を行います。学期末には「中国語Ⅰ、Ⅱ」で１年間学習した中国語の実践練習として、「スピーチ発表会」を行い、中国語での自己紹介を披露してもらいます。

■学習目標

まず、ピンイン（中国語の発音記号）を正しく発音し、聞き取ることができるようにしましょう。また、基本的な文法、文型を理解し、教科書の本文にでてくるような日常会話の決まり文句を使いこなし、自己紹介程度のスピーチがスムーズにできるようにしましょう。そして、辞書をよく引き、インターネットを活用するなど、自分でも学べる環境を整えましょう。

■授業計画・方法

第１回　：ガイダンスと前期の復習
第２回　：第14課　＜マッサージをする＞　－　時間の長さのいいかた
第３回　：第14課　＜マッサージをする＞　－　動作行為の実現・完了を表す助詞〝了〟
第４回　：第15課　＜インターネットカフェ＞　－　動作の対象を表す前置詞〝給〟
第５回　：第15課　＜インターネットカフェ＞　－　助動詞〝可以〟〝能〟
第６回　：第16課　＜電話をかける＞　－　動作行為の進行を表す表現
第７回　：第16課　＜電話をかける＞　－　助動詞〝会〟
第８回　：第17課　＜アルバイトする＞　－　前置詞〝在〟
第９回　：第17課　＜アルバイトする＞　－　二重目的語をとる動詞
第１０回：第18課　＜レストランで＞　－　経験を表す助動詞〝过〟
第１１回：第18課　＜レストランで＞　－　選択疑問文
第１２回：第19課　＜カラオケに行く＞　－　助動詞〝得〟
第１３回：第19課　＜カラオケに行く＞　－　〝一　～　就〟　構文
第１４回：第20課　＜あなたは歌がうまい＞　－　結果補語
第１５回：第20課　＜あなたは歌がうまい＞　－　様態補語と「中国語で歌おう!!」
第１６回：**中間テスト**
第１７回：第21課　＜家族写真＞　－　〝是　～　的〟構文
第１８回：第21課　＜家族写真＞　－　比較表現　－　前置詞〝比〟と
第１９回：第22課　＜シャツを買う＞　－　方向補語①　－　単純方向補語
第２０回：第22課　＜シャツを買う＞　－　〝有点儿〟　と　〝一点儿　〟
第２１回：第23課　＜誕生パーティー＞　－　〝把〟構文
第２２回：第23課　＜誕生パーティー＞　－　方向補語②　－　複合方向補語
第２３回：第24課　＜ＤＶＤを見る＞　－　程度補語
第２４回：第24課　＜ＤＶＤを見る＞　－　可能補語
第２５回：第25課　＜診察を受ける＞　－　主述述語文
第２６回：第25課　＜診察を受ける＞　－　受け身表現
第２７回：第26課　＜帰国前＞　－　〝就要～了〟
第２８回：第26課　＜帰国前＞　－　使役表現
第２９回：**期末テスト**
第３０回：「中国語スピーチ発表会」

■履修上の留意点　（授業以外の学習方法を含む）

「中国語Ⅰ」を履修済みであること

授業中の発音、会話練習の際にはペアレッスンが中心になりますので、恥ずかしがらずに積極的に取り組みましょう。簡体字に慣れ、単語を覚えるためにも課毎に単語テストを行いますので、新しい課に入る際には単語の予習を欠かさず行いましょう。

■成績評価の方法・基準

□方法　中間テスト、期末テストの成績（７０％）に、単語テストの成績（１５％）、課題などの提出物（５％）、「スピーチ発表会」の発表内容と態度（１０％）を総合的に評価します。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　「しゃべっていいとも中国語トータル版」　陳淑梅、劉光赤　（朝日出版社）ISBN コード：978-4-255-45238-8 c1087

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17152	中国語Ⅱ Ｂクラス（火曜、金曜・２限）	２単位 後期	1～4	演習	稲福　礼子（非）

■テーマ　この授業では前期「中国語Ｉ」に引き続き、中国語の発音、会話、聞き取り、文法、作文等の学習を総合的に行い、基礎的なコミュニケーション能力を養います。

■授業概要

簡単な日常会話の練習（家族構成・趣味・買い物・電話・アルバイトなど）に加えて、中国語の漢字（日本語の漢字との違い）を学習する。

■到達目標

簡単な日常会話、中国語の簡単な読み書きができるようになること。

■授業計画・方法

基本的に講義中心の授業。必要に応じてビデオ、CD、DVD 等を使用する。

第１回　：前期のまとめ　－　発音・声調
第２回　：前期のまとめ　－　挨拶表現・自己紹介
第３回　：第14課　＜マッサージをする＞　－　時間の長さのいいかた
第４回　：第14課　＜マッサージをする＞　－　動作行為の実現・完了を表す助詞〝了〟
第５回　：第15課　＜インターネットカフェ＞　－　動作の対象を表す前置詞〝給〟
第６回　：第15課　＜インターネットカフェ＞　－　助動詞〝可以〟〝能〟
第７回　：第16課　＜電話をかける＞　－　動作行為の進行を表す表現
第８回　：第16課　＜電話をかける＞　－　助動詞〝会〟
第９回　：第17課　＜アルバイトする＞　－　前置詞〝在〟
第１０回：第17課　＜アルバイトする＞　－　二重目的語をとる動詞
第１１回：第18課　＜レストランで＞　－　経験を表す助動詞〝过〟
第１２回：第18課　＜レストランで＞　－　選択疑問文
第１３回：第19課　＜カラオケに行く＞　－　助動詞〝得〟　/
第１４回：第19課　＜カラオケに行く＞　－　〝一　～　就〟構文
第１５回：第20課　＜あなたは歌がうまい＞　－　結果補語
第１６回：第20課　＜あなたは歌がうまい＞　－　様態補語
第１７回：会話練習（１）　－　一日のスケジュール
第１８回：会話練習（２）　－　趣味について語る
第１９回：第21課　＜家族写真＞　－　〝是　～　的〟構文
第２０回：第21課　＜家族写真＞　－　比較表現　－　前置詞〝比〟
第２１回：第22課　＜シャツを買う＞　－　方向補語①　－　単純方向補語
第２２回：第22課　＜シャツを買う＞　－　〝有点儿〟と〝一点儿〟
第２３回：第23課　＜誕生パーティー＞　－　〝把〟構文
第２４回：第23課　＜誕生パーティー＞　－　方向補語②　－　複合方向補語
第２５回：第24課　＜ＤＶＤを見る＞　－　程度補語
第２６回：第24課　＜ＤＶＤを見る＞　－　可能補語
第２７回：第25課　＜診察を受ける＞　－　主述述語文
第２８回：第25課　＜診察を受ける＞　－　受け身表現
第２９回：第26課　＜帰国前＞　－　〝就要～了〟、使役表現
第３０回：**まとめ、期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

中国語は日本人にとって発音が難しいところ（例：反り舌音）があるので時間をかけて発音練習を繰り返す必要がある。授業では教師の後についての復唱以外に、役割に応じた会話練習等、学生同士でのグループ学習を取り入れる。毎回、中国の文化、生活習慣などについての講義も行い、その後意見を述べ合う。

各課の終了後は各自付属のCDをくり返し聞くこと。単語は発音できるようにしておき、文法項目は熟読して課末の練習問題は予習として授業前にやっておくこと。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点（出席、テキスト持参、授業への積極的な参加）２０％、
参加点（グループ発表、会話テスト）２０％、期末テスト６０％

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。
教科書の内容を十分理解しているか、積極的に中国語を用いたコミュニケーションが図られているか。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書：「しゃべっていいとも中国語トータル版」　陳淑梅、劉光赤　（朝日出版社）ISBN コード：978-4-255-45238-8 c1087

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17153	中国語Ⅲ	２単位　前期	1～4	講義	運天　亜紀子（非）

■テーマ

中国語Ⅰ、Ⅱ（中国語ⅠA）で学んだ会話や文法の基礎を定着させると共に、語彙の増加、基本文型の応用能力、基礎的な読解力を身につけることをテーマとします。

■授業概要

教科書に沿って中国人の衣食住・教育・交通手段・娯楽、中国人の生活を対話や短い文を通して学ぶ。簡単なことわざ、物語などを通じて中国の文化を知る。

■学習目標

中国語Ⅰ、Ⅱで学んだピンインをしっかり発音できるようにし、中国語検定４級程度の単語を覚え、簡単な日常会話がスムーズにできるようにする。また、会話文だけでなく、短文を読んで正しく理解できるようにする。

■授業計画・方法

基本的に指定の教科書に沿って進め、必要に応じてプリントを配布し、ビデオ、ＣＤ、ＤＶＤ等を使用する。また、ピンインに慣れ、語彙を増やすためにも課毎に新出単語の豆テストを行う。受講者の要望に応じ、授業内容を変更する場合もある。

（1） ガイダンスとアンケート
（2） 復習　「基本動詞、形容詞、文型の再確認」
（3） 第１課「中国に行こう」本文と会話練習
（4） 助動詞「可以」「要」と主述述語文の確認
（5） 第２課「ウーロン茶を飲もう」本文と会話練習
（6） 「因为」「可是」の使い方と文末の助詞について
（7） 第３課「友達を作ろう」本文と会話練習
（8） 連動文と「是～的」文の使い方
（9） 第４課「長城に登ろう」本文と会話練習
(10) 「了」の３つの用法
(11) ＤＶＤ鑑賞会「中国映画を見よう！」
(12) 第５課「漢字を覚えよう」本文と会話練習
(13) 結果補語と仮定を表す「要是」の使い方
(14) 第１課から第５課までのまとめと復習
(15) **期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

中国語Ⅰ、中国語Ⅱを履修済みであること。
受講の際には必ず辞書を持参すること。（電子辞書可）
授業で新しい課に入った時点で新出単語を覚え、単語テストに備えること。

■成績評価の方法・基準

□方法　学期末テスト（70%）を中心に、単語テストの結果や宿題の提出状況（15%）、日頃の授業態度（出席状況や発言）（15%）を加味して評価する。
中国語検定準４級程度の基本単語（400～500 語）の意味や使い方を覚え、学習した簡体字を正確に書き、中国語の発音記号であるピンインを正確に発音できるようにする。また、テキストに出てくる日常挨拶語を適当な場面で使用できるようにする。課題の単語ドリル等はきちんと提出する。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　《新版》『中国語さらなる一歩』竹島金吾　監修　　尹景春・竹島毅　著（白水社）

□参考文献（作品）　授業中随時紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17154	中国語Ⅳ	2単位　後期	1～4	講義	運天　亜紀子（非）

■テーマ

前期・中国語Ⅲに引き続き、中国語Ⅰ、Ⅱ（中国語ⅠA）で学んだ会話や文法の基礎を定着させると共に、語彙の増加、基本文型の応用能力、基礎的な読解力を身につける。

■授業概要

テキストに沿って中国人の衣食住・教育・交通手段・娯楽、中国人の思考を単語や短い文を通して学ぶ。簡単なことわざ、物語などを通じて中国の文化を知る。

■学習目標

ピンインをしっかり発音できるようにし、中国語検定4級程度の単語を覚え、簡単な日常会話がスムーズにできるようにする。また、会話文だけでなく、短文を読んで正しく理解できるようにする。

■授業計画・方法

基本的に指定の教科書に沿って進め、必要に応じてプリントを配布し、ビデオ、CD、DVD等を使用する。また、ピンインに慣れ、語彙を増やすためにも課毎に新出単語の豆テストを行う。受講者の要望に応じ、授業内容を変更する場合もある。

（1） ガイダンスとアンケート
（2） 第6課「街を歩こう」本文と会話練習
（3） 存原文と「又～又～」「一辺～一辺～」の用法
（4） 第7課「中国映画を見よう」本文と会話練習
（5） 状態の持続を表す「着」と部分否定
（6） 第8課「シルクを買おう」本文と会話練習
（7） 方向補語を使役文について
（8） 第9課「中国の歌が歌えますか」本文と会話練習
（9） 可能補語と強調表現
(10) 中国や台湾の流行歌を歌いましょう!!
(11) 第10課「太極拳を習おう」本文と会話練習
(12) 推測を表す「会」と「～了～了」の使い方
(13) 第6課～第10課のまとめと復習
(14) 中国語検定模擬試験
(15) **期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、中国語Ⅲを履修済みであること。
受講の際には必ず辞書を持参すること。（電子辞書可）
授業で新しい課に入った時点で新出単語を覚え、単語テストに備えること。

■成績評価の方法・基準

□方法　学期末テストを中心（70%）に、単語テストの結果や宿題の提出状況（15%）、日頃の授業態度（出席状況や発言）（15%）を加味して評価する。ピンインを正確に発音できるようにし、テキストに出てくる単語について、漢字からピンインへの表記替えやピンインから漢字への表記替えができるようにする。テキストの内容に沿った、中国語検定4級程度の常用語（500～1000）の意味を理解し、適当な場面で使用できるようにする。課題の単語ドリル等はきちんと提出する。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　《新版》『中国語さらなる一歩』竹島金吾　監修　　尹景春・竹島毅　著（白水社）

□参考文献（作品）　授業中随時紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17157 (17155)	中国語特演A （中国語Ⅴ）	2単位　前期	1～4	講義	運天　亜紀子（非）

■テーマ　中国語Ⅰ～Ⅳに引き続き、2 年間学んだ中国語の復習、及び話す、聞く、書くといった総合的な能力の向上を目指す。

■授業概要

前半ではテキストに沿って中国語Ⅲで学習した会話や文法の基礎を定着させ、後半では講読の要素を取り入れ、長文読解、手紙の書き方、文章の翻訳、作文の書き方など、日常生活に必要な実践的な作文力をつける。必要に応じて中国語検定試験の資料の提供、及び模擬試験を行う。

■学習目標

中国語検定 3 級程度の語彙力をつけ、簡単な長文を読み、正しく理解できるようにする。また、辞書に頼らず簡単な日常会話をスムーズに行い、日記程度の作文が書けるようにする。

■授業計画・方法

基本的に講義中心の授業で、前年度の中国語Ⅲ、Ⅳで使用したテキスト『1 冊目の中国語　会話クラス』に沿って進める。必要に応じてビデオ、ＣＤ、ＤＶＤ等を利用する。講読の要素を取り入れるため、場合によっては輪番で発表形式のリポートを行う。その際には担当者にレジュメの提出を課す。また、受講者の要望に応じて授業内容を変更する場合もある。

（1）　ガイダンスとアンケート
（2）　第 11 課「水滸伝を楽しもう」本文と会話練習
（3）　結果補語と受け身
（4）　第 13 課「春節を過ごそう」本文と会話練習
（5）　使役動詞「快～了」の用法と介詞「把」
（6）　中国語検定模擬試験
（7）　「手紙を書こう」
（8）　「中国朋友と話そう」
（9）　「重要語をマスターしよう」①
(10)　「重要語をマスターしよう」②
(11)　第 11 課から 13 課のまとめと復習
(12)　長文読解①
(13)　長文読解②
(14)　長文読解③
(15)　**期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

中国語Ⅲ、中国語Ⅳを履修済みであること。
（平成 27 年入学者:Ⅲ、Ⅳ履修済みが望ましいが、担当教師との面談で中国語Ⅲとの同時履修も可。）
受講の際には必ず辞書（電子辞書可）を持参し、授業の前に新出単語等の予習や確認をしておくこと。
平成 26 年度以前入学の学生は「中国語Ⅴ」を登録すること。

■成績評価の方法・基準

□方法　学期末テストを中心（70%）に、単語テストの結果や宿題の提出状況（15%）、日頃の授業態度（出席状況や発言）（15%）を加味して評価する。
テキストの内容に沿った、簡単な日常会話文を適当な場面で使いこなせるようにする。中国語の複文を日本語に翻訳し、作文することができるようにする。中国語検定模擬試験（4 級）実施の際、筆記、リスニングともに 60 点以上とれるようにする。課題の単語ドリルはきちんと提出する。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　『中国語さらなる一歩』竹島金吾　監修　尹景春・竹島毅　著（白水社）

□参考文献（作品）　授業中随時紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17158 (17156)	中国語特演B （中国語Ⅵ）	2単位　後期	1～4	講義	運天　亜紀子（非）

■テーマ　中国語Ⅴに続き、２年間学んだ中国語の復習、及び話す、聞く、書く能力のさらなる向上を目指す。

■授業概要

教材として中国の歴史、文学、民間芸術、風俗習慣等の様々なジャンルの文章を選定し、講読の要素を取り入れ、長文読解、手紙の書き方、文章の翻訳、作文の書き方など、日常生活に必要な実践的な作文力をつける。必要に応じて中国語検定試験の資料の提供、及び模擬試験を行う。

■学習目標

中国語検定３級程度の語彙力をつけ、簡単な長文を読み、正しく理解できるようにする。また、辞書に頼らず簡単な日常会話をスムーズに行い、日記程度の作文が書けるようにする。

■授業計画・方法

基本的に講義中心の授業であるが、講読の要素を取り入れるため、テキストを指定せず、適宜レジュメやプリントを配布して様々なジャンルの文章を学習する。必要に応じてビデオ、ＣＤ、ＤＶＤ等を利用する。場合によっては輪番で発表形式のリポートを行う。その際には担当者にレジュメの提出を課す。また、受講者の要望に応じて授業内容を変更する場合もある。

（1）　短文を読む（1）
（2）　短文を読む（2）
（3）　短文を読む（3）
（4）　推理小説を読む（1）
（5）　推理小説を読む（2）
（6）　推理小説を読む（3）
（7）　ＤＶＤ鑑賞会「中国映画を見よう！」
（8）　コメディドラマで会話を学ぼう（1）
（9）　コメディドラマで会話を学ぼう（2）
(10)　新聞記事を読む（1）
(11)　新聞記事を読む（2）
(12)　中国語検定模擬試験
(13)　故事成語
(14)　漢詩を読む
(15)　**期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

中国語Ⅲ、中国語Ⅳを履修済みであること。
（平成 27 年入学者：Ⅲ、Ⅳ履修済みが望ましいが、担当教師との面談で中国語Ⅳとの同時履修も可。）
受講の際には必ず辞書（電子辞書可）を持参し、授業の前に新出単語等の予習や確認をしておくこと。
平成 26 年度以前入学の学生は「中国語Ⅵ」を登録すること。

■成績評価の方法・基準

□方法　学期末テストを中心（70%）に、単語テストの結果や宿題の提出状況（15%）、日頃の授業態度（出席状況や発言）（15%）を加味して評価する。
授業の中で扱う様々なジャンルの中国語の文章に対応し、正確に日本語訳ができるようにする。中国語検定 3 級程度の日常会話語（1000～2000 語）を適当な場面で使用できるようにし、辞書を使いながら日記程度の中国語の文章を作文できるようにする。中国語検定模擬試験（3 級）の際、筆記、リスニング共に 65 点以上とれるようにする。課題の単語ドリル等はきちんと提出する。

□基準　到達目標を観点として、履修規定に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

□教科書　必要に応じてプリントやレジュメを配布する。

□参考文献（作品）　授業中随時紹介する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17191	日本語初級Ⅰ	２単位 前期	留学生 対象	演習	真島　知秀（非）

■テーマ　教室内で学んだことを教室外で使ってみる。教室外で見聞きしたことを教室内でフィードバックして、どのように日本語でコミュニケーションを取ればいいのかを学んでいく。

■授業概要

日本語の基本的な文型・文法を学び、ひらがな・カタカナの読み書きの定着を図る。漢字の学習方法を理解し、基本的な語彙や表現力を身につけ、日常生活で必要な基礎的な日本語能力を養う。

■到達目標

- ひらがな・カタカナを習得し、初歩的な語句や文を理解することができる。
- 日本語の基本的な語彙や文型を使って身近なことに関する会話ができる。

■授業計画・方法　（週２コマｘ１５週）

1	オリエンテーション、ニーズ分析、レベルチェック	16	第 12 課 ～でした/かったです。＜比較/最上＞
2	入門①　ひらがな	17	第 13 課 ～がほしいです。～たいです。
3	入門②　カタカナ	18	第 14 課 (て形)ください＜依頼/指示＞
4	入門③　発音（拍・長音・撥音・促音・拗音など）	19	第 15 課 (て形)もいいです＜許可＞
5	第１課　(人)は～です。	20	第 16 課 (て形)から、～＜前後関係＞
6	第２課　これは（物）です。	21	第 17 課 (ない形)なければなりません
7	第３課　ここは（場所）です。	22	第 18 課 (辞書形)ことができます。
8	第４課　～時から～時まで～ます。～時に～ます。	23	第 19 課 (た形)ことがあります。
9	第５課　([場所]へ/[手段]で)行きます。	24	第 20 課 普通体
10	第６課　(場所)で～を～ます。～ませんか/ましょう。	25	第 21 課 (普通形)と思います/言います。
11	第７課　(手段､言語)で～ます｡あげます/もらいます。	26	第 22 課 連体修飾
12	第８課　い形容詞・な形容詞、肯定　否定　修飾用法	27	第 23 課 (辞書形)＋と、～
13	第９課　～が(好き/上手)です。～がわかります	28	第 24 課 (て形)あげます、もらいます、くれます
14	第 10 課 (場所)にいます/あります　＜存在＞	29	第 25 課 ～たら、～。～ても、～
15	第 11 課 助数詞(～つ～人～枚～台)、(数量)～ます	30	**定期試験および解説、総まとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 登録の前にプレイスメントテストを受けること。
- 課題は毎回次のクラスまでに提出すること。
- 授業で学習した表現は、教室外で積極的に使って国際交流を深めるように努めること。

上記授業計画は『みんなの日本語 初級Ⅰ 第２版 本冊』を想定したものである。受講生の日本語レベルやニーズによって教科書の選定を行うが、授業計画の変更部分はまとめた上で別途授業の中で配布する。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加、教科書の内容を十分に理解しているか、積極的に日本語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか等〉(20%)、課題提出・小テスト（20%)、中間・期末試験（60%)。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第２版 本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第２版 翻訳・文法解説（各言語版)』スリーエーネットワーク
- 『まるごと 日本のことばと文化 入門 かつどう/りかい』三修社
- 『まるごと 日本のことばと文化 初級１ かつどう/りかい』三修社

学習者のレベルやニーズに応じた教科書を担当教員が授業中に指示し、各自で教科書の購入を行う。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17192	日本語初級Ⅱ	２単位 後期	留学生 対象	演習	真島　知秀（非）

■テーマ　教室内で学んだことを教室外で使ってみる。教室外で見聞きしたことを教室内でフィードバックして、どのように日本語でコミュニケーションを取ればいいのかを学んでいく。自国との文化・考え方の違いを学習者間で共有する。

■授業概要

日本語初級Ⅰに引き続き、日本語の基本的な文型・文法を学び、ひらがな・カタカナの読み書きの定着を図る。漢字の学習方法を理解し、基本的な語彙や表現力を身につけ、日常生活で必要な基礎的な日本語能力を養う。

■学習目標

- 初級レベルの漢字を習得し、簡単な文章を書くことができる。
- 日常生活での話題や関心のあることについて日本語で会話をすることができる。

■授業計画・方法　（週２コマｘ１５週）

1	オリエンテーション、ニーズ調査	16	第 38 課 ［辞書形］のは［形容詞］です/
2	前期(第 25 課)までのふりかえり	17	第 39 課 ［て形］、～ / ［ない形］くて、～
3	第 26 課 ［普通形］んです/［て形］いただけませんか	18	第 40 課 ［疑問詞］［普通形］か、～
4	第 27 課 ［可能形］ 見えます/聞こえます/できます	19	第 41 課 ［名詞］をやり/いただき/くださいます
5	第 28 課 ［て形］います〈習慣〉	20	第 42 課 ［名詞］のために/［辞書形］ために〈目的〉
6	第 29 課 ［て形］います〈状態〉	21	第 43 課 ［ます形］そうです〈様態〉
7	第 30 課 ［て形］あります〈状態＋目的〉	22	第 44 課 ［ます形/い/な形容詞］すぎます
8	第 31 課 ［意向形］と思っています。［辞書形/ない形］つもりです。	23	第 45 課 ［普通形］場合は、～
9	第 32 課 ［た形/ない形］ほうがいいです。	24	復習 ［第 36～45 課］
10	第 33 課 命令形/禁止形	25	第 46 課 ［辞書形/て形いる/た形］ところです
11	第 34 課 ［名詞］のとおりに/［辞書形/た形］とおりに	26	第 47 課 ［普通形］そうです〈伝聞〉/ようです
12	第 35 課 ［条件形/［い形容詞］ければ/［な形容詞/名詞］なら〈仮定〉	27	第 48 課 ［使役て形］いただけませんか
13	復習 ［第 26～35 課］	28	第 49 課 謙譲語
14	第 36 課 ［辞書形］ようになりました/［ない形］くなりました	29	第 50 課 尊敬語
15	第 37 課 ［人］によって［受身形］	30	**定期試験および解説、総まとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 登録の前にプレイスメントテストを受けること。
- 課題は毎回次のクラスまでに提出すること。
- 授業で学習した表現は、教室外で積極的に使って国際交流を深めるように努めること。

上記授業計画は『みんなの日本語 初級Ⅱ 第２版 本冊』を想定したものである。受講生の日本語レベルやニーズによって教科書の選定を行うが、授業計画の変更部分はまとめた上で別途授業の中で配布する。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加、教科書の内容を十分に理解しているか、積極的に日本語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか等〉（20%）、課題提出・小テスト（20%）、中間・期末試験（60%）。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第２版 本冊』スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第２版 翻訳・文法解説（各言語版）』スリーエーネットワーク
- 『まるごと 日本のことばと文化 初級１ かつどう/りかい』三修社
- 『まるごと 日本のことばと文化 初級２ かつどう/りかい』三修社

学習者のレベルやニーズに応じた教科書を担当教員が授業中に指示し、各自で教科書の購入を行う。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17193	日本語中級Ⅰ	２単位 前期	留学生 対象	演習	中川　麻美（非）

■テーマ　中級レベルの日本語の「読む」「書く」「話す」技能を身につける。

■授業の概要

日本語の初級レベルを修了した学生を対象に、中級レベルの文型・文法を導入し、日本語の理解力を深める。漢字や語彙の学習を拡充し、一般的な事柄について会話をしたり、意見を正確に伝えたりする表現力を養う。

■到達目標

・日本語の中級レベルの文法を理解し、実用的な文章を読んだり書いたりすることができる。
・日常生活で日本語を使って情報や意見を正確に聞き取ったり伝えたりすることができる。

■授業計画・方法

1	オリエンテーション	2	第１課　「カタカナ語」文法理解
3	第１課　読解練習、聴解練習	4	第１課　作文、発表
5	第２課　「いい数字・悪い数字」文法理解	6	第２課　読解練習、聴解練習
7	第２課　作文、発表	8	復習
9	第３課　「おもしろい日本」文法理解	10	第３課　読解練習、聴解練習
11	第３課　作文、発表	12	第４課　「くしゃみ」文法理解
13	第４課　読解練習、聴解練習	14	第４課　作文、発表
15	復習	16	中間テスト・ふりかえり
17	第５課　「わたしの町」文法理解	18	第５課　読解練習、聴解練習
19	第５課　作文、発表	20	第６課　「この日に食べなきゃ」文法理解
21	第６課　読解練習、聴解練習	22	第６課　作文、発表
23	復習	24	第７課　「お相撲さんの世界」文法理解
25	第７課　読解練習、聴解練習	26	第７課　作文、発表
27	第８課　「第一印象」文法理解	28	第８課　読解練習、聴解練習
29	第８課　作文、発表	30	**期末試験および解説・まとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・登録の前にプレイスメントテストを受けること。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉（40%）、課題提出・小テスト（20%）、定期試験（40%）
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書：『中級を学ぼう―日本語の文型と表現５６　中級前期』スリーエーネットワーク
□参考文献：『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17194	日本語中級Ⅱ	２単位 後期	留学生 対象	講義	中川　麻美（非）

■テーマ　中級レベルの日本語の「読む」「書く」「話す」技能を身につける。

■授業の概要

日本語の中級レベルの学生を対象に、さらに発展した文型・文法を導入し、日本語の理解力を深める。様々な文章を読んで内容を把握する力を身につけ、意見を正確に伝える表現力を養う。

■到達目標

・日本語の中級レベルの文法を理解し、実用的な文章を読んだり書いたりすることができる。
・日常生活で日本語を使って情報や意見を正確に聞き取ったり伝えたりすることができる。

■授業計画・方法

1	オリエンテーション	2	L1.「まなぶ」読解、要約、討論
3	L.2「みつける」読解、要約、討論	4	L.3「たべる」読解、要約、討論
5	L.4「たとえる」読解、要約、討論	6	L.5「あきれる」読解、要約、討論
7	L.6「つたえる」読解、要約、討論	8	復習 L.1-6
9	L.7「かざる」読解、要約、討論	10	L.8「おもいこむ」読解、要約、討論
11	L.9「まもる」読解、要約、討論	12	L.10「なれる」読解、要約、討論
13	L.11「つながる」読解、要約、討論	14	L.12「わける」読解、要約、討論
15	復習 L.7-12	16	L.13「おもいだす」読解、要約、討論
17	L.14「みなおす」読解、要約、討論	18	L.15「ふれあう」読解、要約、討論
19	L.16「うたう」読解、要約、討論	20	L.17「なおす」読解、要約、討論
21	L.18「はなれる」読解、要約、討論	22	復習L.13-19
23	L.19「かなえる」読解、要約、討論	24	L.20「おぼえる」読解、要約、討論
25	L.21「しる」読解、要約、討論	26	L.22「いたわる」読解、要約、討論
27	L.23「ならう」読解、要約、討論	28	L.24「よみとる」読解、要約、討論
29	復習L.20-24	30	**全体のまとめ・期末テスト**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・登録の前にプレイスメントテストを受けること。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉（40%）、課題提出・小テスト（20%）、定期試験（40%）

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書　『テーマ別　中級から学ぶ日本語』研究社その他

□参考文献　『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17195	日本語上級Ⅰ	２単位 前期	留学生 対象	講義	中川　麻美（非）

■テーマ　主に専門性のある文章の読解をしながら日本語の技能を総合的に習得する。

■授業の概要

日本語の中級レベルを終了した学生を対象とする。文型項目を体系的に学習しながら高度な日本語の文章を読む力・聞く力を身につける。文章のそれぞれのトピックに関するディスカッションを行い、専門性のあるテーマに関する文章を書く力を身につける。

■到達目標

・日本に関する専門性の高い文章を読んで理解することができる。
・日本語で自らの意見をまとめて文章を書いたり、話をしたりすることができる。

■授業計画・方法

1．オリエンテーションほか
2．事柄を加える　聴読解・文型練習
3．事柄を加える　ディスカッション・作文
4．時・場面を示す　聴読解・文型練習
5．時・場面を示す　ディスカッション・作文
6．因果関係を示す　聴読解・文型練習
7．因果関係を示す　ディスカッション・作文
8．逆接のつながりを示す（1）　聴読解・文型練習
9．逆接のつながりを示す（1）　ディスカッション・作文
10. 条件を示す　聴読解・文型練習
11. 条件を示す　ディスカッション・作文
12. 逆接のつながりを示す（2）　聴読解・文型練習
13. 逆接のつながりを示す（2）　ディスカッション・作文
14. まとめ、復習
15. **定期試験および解説・まとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・登録の前にプレイスメントテストを受けること。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉（60%）、課題提出・プレゼンテーション（40%）
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書　『ニューアプローチ中上級日本語　完成編』語文研究社
□参考文献　『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17196	日本語上級Ⅱ	２単位 後期	留学生 対象	講義	中川　麻美（非）

■テーマ　主に専門性のある文章の読解をしながら日本語の技能を総合的に習得する。

■授業の概要

日本語の上級レベルの学生を対象とする。文型項目を体系的に学習しながら高度な日本語の文章を読む力・聞く力を身につける。文章のそれぞれのトピックに関するディスカッションを行い、専門性のあるテーマに関する文章を書く力を身につける。

■到達目標

・日本に関する専門性の高い文章を読んで理解することができる。
・日本語で自らの意見をまとめて文章を書いたり、話をしたりすることができる。

■授業計画・方法

1．オリエンテーション
2．主題・対象を示す　聴読解・文型練習
3．主題・対象を示す　ディスカッション・作文
4．時・場面を示す　聴読解・文型練習
5．時・場面を示す　ディスカッション・作文
6．事柄を述べる　聴読解・文型練習
7．事柄を述べる　ディスカッション・作文
8．対象を限定・特定する、しない　聴読解・文型練習
9．対象を限定・特定する、しない　ディスカッション・作文
10．事柄を加える　聴読解・文型練習
11．事柄を加える　ディスカッション・作文
12．言い換える・まとめる　聴読解・文型練習
13．言い換える・まとめる　ディスカッション・作文
14．まとめ、復習
15．**定期試験および解説**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・登録の前にプレイスメントテストを受けること。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加〉（60%）、課題提出・プレゼンテーション（40%）
□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書　『ニューアプローチ中上級日本語　完成編』語文研究社
□参考文献　『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
17197	日本語特演	２単位 後期	留学生 対象	演習	中川　麻美（非） 真島　知秀（非）

■テーマ　学習者が伸ばしたい分野について理解を深める。
これまでのテーマとしては「日本語能力試験（JLPT）合格を目指す」「漢字の読み書きの力をつける」「読解・聴解力をつける」などがある。

■授業概要

教科書やオリジナル教材を使って、日本語の話す・聞く・読む・書くというコミュニケーション能力の向上を図るとともに、日本や沖縄に関する知識を深め、より良い異文化理解を目指す。基本的に、後期入学の留学生を対象とする。

■学習目標

- 日本語を使って日常生活での話題についてコミュニケーションをとることができる。
- 日本語あるいはそれぞれの母国語で、日本文化や沖縄の文化について説明することができる。

■授業計画・方法

講師２名によるティームティーチングで授業を行う。週２回の授業を、各曜日担当の教員が学習者のレベルやニーズに合わせた内容で行う。取り扱う教材やカリキュラムの詳細については、受講生のプレイスメントテストの結果をもとに、学期の初めに担当講師が決定し提示する。

第１週　：オリエンテーション&プレイスメントテスト
第２週　：表記法・発音
第３週　：文法・会話表現１
第４週　：文法・会話表現２
第５週　：文法・会話表現３
第６週　：文法・会話表現４
第７週　：文法・会話表現５
第８週　：文法・会話表現６
第９週　：文法・会話表現７
第 10 週：文法・会話表現８
第 11 週：文法・会話表現９
第 12 週：文法・会話表現 10
第 13 週：文法・会話表現 11
第 14 週：文法・会話表現 12
第 15 週：**定期試験および解説、総まとめ**

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

登録の前にプレイスメントテストを受けること。

原則として、後期入学の留学生を優先的に受け入れるが、担当教師が認めた場合は、他の留学生の参加も可とする。

■成績評価の方法・基準

□方法　平常点〈授業への積極的な参加、教科書の内容を十分に理解しているか、積極的に日本語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているかなど〉（20%）、課題提出・小テスト（20%）、中間・期末試験（60%）。

□基準　到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献等

- 初級レベル：『みんなの日本語－初級Ｉ本冊』スリーエーネットワーク
- 中級レベル：『中級を学ぼう―日本語の文型と表現 56』スリーエーネットワーク
- その他、オリジナル教材、プリント等